

**TOSHIBA**

**TOSHIBA TX03 ペリフェラルドライバ  
ユーザーガイド  
(TMPM381/383)**

第 0.102 版  
2017 年 9 月

**東芝デバイス&ストレージ株式会社**

CMDR-M381UG-00xJ

**TOSHIBA**

---

**© 2017 Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation**

---

## 目次

<b>1.</b>	<b>はじめに .....</b>	<b>1</b>
<b>2.</b>	<b>TX03 ペリフェラルドライバの構成.....</b>	<b>1</b>
<b>3.</b>	<b>ADC .....</b>	<b>2</b>
3.1	概要 .....	2
3.2	API 関数.....	2
3.2.1	関数一覧.....	2
3.2.2	関数の種類 .....	2
3.2.3	関数仕様.....	3
3.2.4	データ構造 .....	11
<b>4.</b>	<b>CG.....</b>	<b>13</b>
4.1	概要 .....	13
4.2	API 関数.....	13
4.2.1	関数一覧.....	13
4.2.2	関数の種類 .....	13
4.2.3	関数仕様.....	14
4.2.4	データ構造 .....	31
<b>5.</b>	<b>FC.....</b>	<b>48</b>
5.1	概要 .....	48
5.2	API 関数.....	48
5.2.1	関数一覧.....	48
5.2.2	関数の種類 .....	48
5.2.3	関数仕様.....	49
5.2.4	データ構造 .....	54
<b>6.</b>	<b>FUART.....</b>	<b>55</b>
6.1	概要 .....	55
6.2	API 関数.....	55
6.2.1	関数一覧.....	55
6.2.2	関数の種類 .....	56
6.2.3	関数仕様.....	56
6.2.4	データ構造 .....	66
<b>7.</b>	<b>GPIO.....</b>	<b>68</b>
7.1	概要 .....	68
7.2	API 関数.....	68
7.2.1	関数一覧.....	68
7.2.2	関数の種類 .....	68
7.2.3	関数仕様.....	69
7.2.4	データ構造 .....	81
<b>8.</b>	<b>OFD .....</b>	<b>83</b>
8.1	概要 .....	83
8.2	API 関数.....	83
8.2.1	関数一覧.....	83
8.2.2	関数の種類 .....	83
8.2.3	関数仕様.....	83
8.2.4	データ構造 .....	86
<b>9.</b>	<b>RMC.....</b>	<b>87</b>
9.1	概要 .....	87
9.2	API 関数.....	87
9.2.1	関数一覧.....	87
9.2.2	関数の種類 .....	87
9.2.3	関数仕様.....	88
9.2.4	データ構造 .....	95
<b>10.</b>	<b>RTC .....</b>	<b>97</b>
10.1	概要 .....	97

---

10.2	API 関数.....	97
10.2.1	関数一覧.....	97
10.2.2	関数の種類.....	98
10.2.3	関数仕様.....	98
10.2.4	データ構造.....	115
11.	SBI.....	117
11.1	概要.....	117
11.2	API 関数.....	117
11.2.1	関数一覧.....	117
11.2.2	関数の種類.....	117
11.2.3	関数仕様.....	118
11.2.4	データ構造.....	123
12.	SSP.....	125
12.1	概要.....	125
12.2	API 関数.....	125
12.2.1	関数一覧.....	125
12.2.2	関数の種類.....	126
12.2.3	関数仕様.....	126
12.2.4	データ構造.....	134
13.	TMRB.....	136
13.1	概要.....	136
13.2	API 関数.....	136
13.2.1	関数一覧.....	136
13.2.2	関数の種類.....	137
13.2.3	関数仕様.....	137
13.2.4	データ構造.....	145
14.	SIO/UART.....	148
14.1	概要.....	148
14.2	API 関数.....	148
14.2.1	関数一覧.....	148
14.2.2	関数の種類.....	149
14.2.3	関数仕様.....	149
14.2.4	データ構造.....	162
15.	VLTD.....	165
15.1	概要.....	165
15.2	API 関数.....	165
15.2.1	関数一覧.....	165
15.2.2	関数の種類.....	165
15.2.3	関数仕様.....	165
15.2.4	データ構造.....	166
16.	WDT.....	167
16.1	概要.....	167
16.2	API 関数.....	167
16.2.1	関数一覧.....	167
16.2.2	関数の種類.....	167
16.2.3	関数仕様.....	167
16.2.4	データ構造.....	170

---

## 1. はじめに

本製品は、東芝TX03シリーズマイコン用ペリフェラルドライバセットです。TMPM38xペリフェラルドライバは、東芝TX03ペリフェラルドライバのTMPM38xシリーズMCU用です。

TX03 ペリフェラルドライバでは、ユーザーアプリケーション内で各ペリフェラルを簡単に使用するためのマクロ、データ構造、関数および使用例を用意しています。

TMPM38x ペリフェラルドライバは以下の仕様に基づいています。

- スタートアップルーチンといくつかの関数を除き、C 言語で記述されています。
- すべての周辺機能をカバーしています。

注: 以降、TMPM38xはTMPM381/383を表します。

## 2. TX03 ペリフェラルドライバの構成

### **/Libraries**

TX03 CMSIS ファイルと TMPM38x ペリフェラルドライバが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_CMSIS**

このフォルダには TMPM38x CMSIS ファイルのデバイス・ペリフェラル・アクセス・レイヤーが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver**

TMPM38x ペリフェラルドライバの全てのソースコードが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc**

TMPM38x ペリフェラルドライバのヘッダファイルが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src**

TMPM38x ペリフェラルドライバのソースファイルが格納されています。

### **/Project**

TMPM38x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトと使用例が格納されています。

### **/Project/Template**

TMPM38x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトが格納されています。

### **/Project/Examples**

TMPM38x ペリフェラルドライバの使用例が格納されています。

### **/Utilities/TMPM38x-EVAL**

TMPM38x ボードのハードウェアリソース用の設定ファイル、およびドライバファイル (例: led, key) が格納されています。

## 3. ADC

### 3.1 概要

本デバイスは、12/10(選択可能)ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバータ(AD コンバータ)を内蔵しています。

TMPM383 はアナログ入力を 10 チャンネル(AIN0~AIN9)内蔵し、TMPM381 はアナログ入力を 18 チャンネル(AIN0~AIN17)内蔵しています。

機能と特徴:

- (1)TMRBからのトリガ信号に同期して任意のアナログ入力を変換することができます。
- (2)ソフトウェア起動、常時起動において任意のアナログ入力を変換する事ができます。
- (3)AD 変換値レジスタが12 個あります。
- (4)TMRBのトリガ起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
- (5)ソフトウェア起動、常時起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
- (6)AD 監視機能があります。有効時に比較条件と一致した場合は割り込みを発生します。

ADCドライバ API は、各モジュールの設定機能を持ち、チャンネル選択、モード設定、モニタ機能設定、割り込み設定、ステータスリード、AD 変換結果の取得などの機能を提供します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_adc.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_adc.h

### 3.2 API 関数

#### 3.2.1 関数一覧

- ◆ void ADC\_SetClk(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, uint32\_t **Sample\_HoldTime**,  
uint32\_t **Prescaler\_Output**)
- ◆ void ADC\_SetResolution(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, ADC\_Resolution **ADBits**)
- ◆ ADC\_Resolution ADC\_GetResolution(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)
- ◆ void ADC\_Enable(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)
- ◆ void ADC\_Disable(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)
- ◆ void ADC\_Start(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, ADC\_TrgType **Trg**)
- ◆ void ADC\_StopConstantTrg(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)
- ◆ WorkState ADC\_GetConvertState(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, ADC\_TrgType **Trg**)
- ◆ void ADC\_SetLowPowerMode(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetMonitor(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, ADC\_MonitorTypeDef \* **Monitor**)
- ◆ void ADC\_DisableMonitor(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**, ADC\_CMPCRx **CMPCRx**)
- ◆ ADC\_Result ADC\_GetConvertResult(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**)
- ◆ void ADC\_SetTimerTrg(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**, uint8\_t **MacroAINx**)
- ◆ void ADC\_SetSWTrg(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**, uint8\_t **MacroAINx**)
- ◆ void ADC\_SetConstantTrg(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**, uint8\_t **MacroAINx**)

## 3.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) AD 変換設定:  
ADC\_SetClk(), ADC\_SetResolution(), ADC\_SetMonitor(), ADC\_DisableMonitor(),  
DC\_SetTimerTrg(), ADC\_SetSWTrg(), ADC\_SetConstantTrg()
- 2) AD 機能の有効/無効、変換開始/停止:  
ADC\_Enable(), ADC\_Disable(), ADC\_Start(), ADC\_StopConstantTrg()
- 3) AD 変換ステータス/結果の読み出し:  
ADC\_GetResolution(), ADC\_GetConvertState(), ADC\_GetConvertResult()
- 4) その他:  
ADC\_SetLowPowerMode()

## 3.2.3 関数仕様

### 3.2.3.1 ADC\_SetClk

AD 変換サンプルホールド時間とプリスケアラ出力の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetClk(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
           uint32_t Sample_HoldTime,  
           uint32_t Prescaler_Output)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**Sample\_HoldTime**: 以下から ADC サンプルホールド時間を選択します。

➤ **ADC\_HOLD\_FIX**: TSH<0:3>へ“1001b”をライトします。

**Prescaler\_Output**: 以下から ADC プリスケアラ出力(ADCLK)を選択します。

➤ **ADC\_FC\_DIVIDE\_LEVEL\_NONE**: fc

機能:

**Sample\_HoldTime** で ADC サンプルホールド時間を設定し、**Prescaler\_Output** でプリスケアラ出力を設定します。

戻り値:

なし

### 3.2.3.2 ADC\_SetResolution

12bit/10bit 分解能モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetResolution(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                  ADC_Resolution ADBits)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**ADBits**: 12bit/10bit 分解能モードを選択します。

➤ **ADC\_10BITS**: 10bit

➤ **ADC\_12BITS: 12bit**

**機能:**

12bit/10bit 分解能モードを選択します。初期設定時に本 API をコールしてください。  
電源投入後の初期状態は 12bit 分解能です。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.3 ADC\_GetResolution

12bit/10bit 分解能モードの選択状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

ADC\_Resolution

ADC\_GetResolution(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**機能:**

12bit/10bit 分解能モードの選択状態を取得します。

**戻り値:**

12bit/10bit 分解能モードの選択状態:

**ADC\_10BITS:** 10bit

**ADC\_12BITS:** 12bit

### 3.2.3.4 ADC\_Enable

AD 変換の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

ADC\_Enable(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**)

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**機能:**

AD 変換を許可します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.5 ADC\_Disable

AD 変換の禁止



**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
ADC_Disable(TSB_AD_TypeDef * ADx)  
t
```

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

- **TSB\_AD**

**機能:**

AD 変換を禁止します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.6 ADC\_Start

AD 変換の開始

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
ADC_Start(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
          ADC_TrgType Trg)
```

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

- **TSB\_AD**

**Trg:** 以下からトリガタイプを選択します。

- **ADC\_TRG\_SW:** ソフトウェア変換
- **ADC\_TRG\_CONSTANT:** 常時 AD 変換

**機能:**

選択したトリガタイプで AD 変換を開始します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.7 ADC\_StopConstantTrg

通常起動時の AD 変換停止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
ADC_StopConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx)
```

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

- **TSB\_AD**

**機能:**

通常起動時の AD 変換を停止します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.8 ADC\_GetConvertState

AD 変換状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

```
ADC_GetConvertState(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                    ADC_TrgType Trg)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**Trg**: 以下から起動方法を選択します。

➤ **ADC\_TRG\_SW**: ソフトウェア起動

➤ **ADC\_TRG\_CONSTANT**: 常時 AD 変換

➤ **ADC\_TRG\_TIMER**: タイマからのトリガ信号

機能:

指定された起動方法にて AD 変換状態を確認します。

戻り値:

AD 変換状態:

**BUSY**: 変換中

**DONE**: 停止

### 3.2.3.9 ADC\_SetLowPowerMode

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流制御

関数のプロトタイプ宣言:

void

```
ADC_SetLowPowerMode(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                    FunctionalState NewState)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**NewState**: 以下から、AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

➤ **DISABLE**: リセット時以外常時通電

➤ **ENABLE**: 変換中のみ通電

機能:

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

戻り値:

なし

## 3.2.3.10 ADC\_SetMonitor

AD 監視機能の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetMonitor(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
               ADC_MonitorTypeDef * Monitor)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**Monitor**: 構造体の詳細は以下です。

```
typedef struct {  
    ADC_CMPCRx CMPCRx;  
    ADC_REGx ResultREGx;  
    uint32_t CmpTimes;  
    ADC_CmpCondition Condition;  
    uint32_t CmpValue;  
} ADC_MonitorTypeDef  
詳細は後述の“データ構造:”を参照してください。
```

機能:

ADC\_MonitorTypeDef \* **Monitor** で AD 監視設定を行い、有効にします。

戻り値:

なし

## 3.2.3.11 ADC\_DisableMonitor

AD 監視機能の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_DisableMonitor(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                   ADC_CMPCRx CMPCRx)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**CMPCR<sub>x</sub>**: 比較制御レジスタを選択します。

➤ **ADC\_CMPCR\_0**: ADCMPCR0

➤ **ADC\_CMPCR\_1**: ADCMPCR1

機能:

**CMPCR<sub>x</sub>** で無効にする AD 監視機能を選択します。

戻り値:

なし

## 3.2.3.12 ADC\_GetConvertResult

AD 変換結果の読み出し

## 関数のプロトタイプ宣言:

ADC\_Resul

ADC\_GetConvertResult(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**)

## 引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**ResultREGx**: 以下から、AD 変換結果レジスタを選択します。

- **ADC\_REG0**: ADREG0
- **ADC\_REG1**: ADREG1
- **ADC\_REG2**: ADREG2
- **ADC\_REG3**: ADREG3
- **ADC\_REG4**: ADREG4
- **ADC\_REG5**: ADREG5
- **ADC\_REG6**: ADREG6
- **ADC\_REG7**: ADREG7
- **ADC\_REG8**: ADREG8
- **ADC\_REG9**: ADREG9
- **ADC\_REG10**: ADREG10
- **ADC\_REG11**: ADREG11

## 機能:

**ResultREGx** に設定されている AD 変換結果格納フラグ、オーバーランフラグ、変換結果を読み出します。

## 戻り値:

AD 変換結果:

**Stored**(Bit0): AD 変換結果格納フラグ

**OverRun**(Bit1): オーバーランフラグ

**ADResult**(Bit4~Bit15): AD 変換結果

### 3.2.3.13 ADC\_SetTimerTrg

タイマトリガ用プログラムレジスタの設定

## 関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC\_SetTimerTrg(TSB\_AD\_TypeDef \* **ADx**,  
ADC\_REGx **ResultREGx**,  
uint8\_t **MacroAINx**)

## 引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**ResultREGx**: 以下から、タイマトリガ用プログラムレジスタを選択します。

- **ADC\_REG0**: ADREG0
- **ADC\_REG1**: ADREG1
- **ADC\_REG2**: ADREG2
- **ADC\_REG3**: ADREG3
- **ADC\_REG4**: ADREG4
- **ADC\_REG5**: ADREG5

- ADC\_REG6: ADREG6
- ADC\_REG7: ADREG7
- ADC\_REG8: ADREG8
- ADC\_REG9: ADREG9
- ADC\_REG10: ADREG10
- ADC\_REG11: ADREG11

**MacroAINx:** 以下から、許可/禁止付 AD チャンネルを選択します。

- TRG\_ENABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を許可
- TRG\_DISABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を禁止  
以下から、'y'を選択します。

TMPPM381: ADC\_AIN0~ADC\_AIN17

TMPPM383: ADC\_AIN0~ADC\_AIN9

**機能:**

**ResultREGx**により AD 変換結果レジスタの設定を行い、タイマトリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx**により AIN 端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.14 ADC\_SetSWTrg

ソフトウェアトリガ用レジスタの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
ADC_SetSWTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
              ADC_REGx ResultREGx,  
              uint8_t MacroAINx)
```

**引数:**

**ADx:** ADC ユニットを指定します。

- TSB\_AD

**ResultREGx:**ソフトウェアトリガ用プログラムによる AD 変換結果レジスタを選択します。

- ADC\_REG0: ADREG0
- ADC\_REG1: ADREG1
- ADC\_REG2: ADREG2
- ADC\_REG3: ADREG3
- ADC\_REG4: ADREG4
- ADC\_REG5: ADREG5
- ADC\_REG6: ADREG6
- ADC\_REG7: ADREG7
- ADC\_REG8: ADREG8
- ADC\_REG9: ADREG9
- ADC\_REG10: ADREG10
- ADC\_REG11: ADREG11

**MacroAINx:** 以下から、許可/禁止付 AD チャンネルを選択します。

- TRG\_ENABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を許可
- TRG\_DISABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を禁止  
以下から、'y'を選択します。

TMPM381: ADC\_AIN0~ADC\_AIN17

TMPM383: ADC\_AIN0~ADC\_AIN9

機能:

**ResultREGx**により AD 変換結果レジスタの設定を行い、ソフトウェアトリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx**により AIN 端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

### 3.2.3.15 ADC\_SetConstantTrg

常時トリガ用プログラムレジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

```
ADC_SetConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                   ADC_REGx ResultREGx,  
                   uint8_t MacroAINx)
```

引数:

**ADx**: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB\_AD**

**ResultREGx**: 以下から、常時トリガプログラム用 AD 変換結果レジスタを選択します。

- **ADC\_REG0**: ADREG0
- **ADC\_REG1**: ADREG1
- **ADC\_REG2**: ADREG2
- **ADC\_REG3**: ADREG3
- **ADC\_REG4**: ADREG4
- **ADC\_REG5**: ADREG5
- **ADC\_REG6**: ADREG6
- **ADC\_REG7**: ADREG7
- **ADC\_REG8**: ADREG8
- **ADC\_REG9**: ADREG9
- **ADC\_REG10**: ADREG10
- **ADC\_REG11**: ADREG11

**MacroAINx**: 以下から、許可/禁止付 AD チャンネルを選択します。

- **TRG\_ENABLE(y)**: **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を許可
  - **TRG\_DISABLE(y)**: **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を禁止
- 以下から、'y'を選択します。

TMPM381: ADC\_AIN0~ADC\_AIN17

TMPM383: ADC\_AIN0~ADC\_AIN9

機能:

**ResultREGx**により AD 変換結果レジスタの設定を行い、常時トリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx**により AIN 端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

## 3.2.4 データ構造

### 3.2.4.1 ADC\_MonitorTypeDef

メンバ:

ADC\_CMPCR<sub>x</sub>

**CMPCR<sub>x</sub>** 以下からコンペア制御レジスタを選択します。

- **ADC\_CMPCR\_0:** ADCMPCR0
- **ADC\_CMPCR\_1:** ADCMPCR1

ADC\_REG<sub>x</sub>

**ResultREG<sub>x</sub>** 以下から AD 変換結果レジスタを選択します。

- **ADC\_REG0:** ADREG0
- **ADC\_REG1:** ADREG1
- **ADC\_REG2:** ADREG2
- **ADC\_REG3:** ADREG3
- **ADC\_REG4:** ADREG4
- **ADC\_REG5:** ADREG5
- **ADC\_REG6:** ADREG6
- **ADC\_REG7:** ADREG7
- **ADC\_REG8:** ADREG8
- **ADC\_REG9:** ADREG9
- **ADC\_REG10:** ADREG10
- **ADC\_REG11:** ADREG11

uint32\_t

**CmpTimes** 以下から比較カウント数を選択します。

- 1~16

ADC\_CmpCondition

**Condition** 以下から ADREG<sub>x</sub> <ADCMP<sub>y</sub>>のの比較設定を選択します。(x=0~11, y=0~1)

- **ADC\_LARGER\_THAN\_CMP\_REG:** 変換結果レジスタ値が比較レジスタ 0 より大きい場合に割り込みを発生します。
- **ADC\_SMALLER\_THAN\_CMP\_REG:** 変換結果レジスタ値が比較レジスタ 0 より小さい場合に割り込みを発生します。

uint32\_t

**CmpValue** 以下から ADxCMP0、または ADxCMP1 に設定する比較値を選択します。

- 12bit モードの場合: 0~4095
- 10bit モードの場合: 0~1023

### 3.2.4.2 ADC\_Result

メンバ:

uint32\_t

**All:** AD 変換結果

ビットフィールド:

uint32\_t

**Stored:** 1 AD 変換結果の格納状態

uint32\_t

**OverRun:** 1 AD 変換オーバーランフラグ

uint32\_t

**Reserved1:** 2 予約

uint32\_t

**ADResult:** 12AD 変換結果  
uint32\_t  
**Reserved2:** 16予約



## 4. CG

### 4.1 概要

本 CG API は TPM38x CG において以下の機能を提供します。

- システムクロックの制御、クロック逡倍回路 (PLL) の制御
- プリスケールクロックの制御
- ウォーミングアップタイマの制御
- 各種低消費電力モードの制御
- 割り込み要求制御

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_cg.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_cg.h

CG のクロックとして、以下のシンボルを使用しています。詳しくは MCU データシートの「クロックシステムブロック図」を参照してください。

**fEHOSC** : X1, X2 端子より入力されるクロック

**fIHOSC** : 内蔵高速発振より入力されるクロック

**fs** : XT1, XT2 (低速クロック) 端子より入力されるクロック

**fosc** : CGOSCCR<OSCSSEL>により選択されるクロック(fEHOSCまたはfIHOSC)

**fPLL** : PLL により逡倍(4 逡倍) されたクロック

**fc** : CGPLLSEL<PLLSEL> で選択されたクロック( 高速クロック)

**fgear** : CGSYSCR<GEAR[2:0]> で選択されたクロック

**fsys** : fgear と同一クロック( システムクロック)

**fperiph** : CGSYSCR<FPSEL> で選択されたクロック

**φT0** : CGSYSCR<PRCK[2:0]> で選択されたクロック ( プリスケールクロック)

### 4.2 API 関数

#### 4.2.1 関数一覧

- ◆ void CG\_SetFgearLevel(CG\_DivideLevel **DivideFgearFromFc**)
- ◆ CG\_DivideLevel CG\_GetFgearLevel(void)
- ◆ void CG\_SetPhiT0Src(CG\_PhiT0Src **PhiT0Src**)
- ◆ CG\_PhiT0Src CG\_GetPhiT0Src(void)
- ◆ Result CG\_SetPhiT0Level(CG\_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)
- ◆ CG\_DivideLevel CG\_GetPhiT0Level(void)
- ◆ void CG\_SetSCOUTSrc(CG\_SCOUTSrc **Source**)
- ◆ CG\_SCOUTSrc CG\_GetSCOUTSrc(void)
- ◆ void CG\_SetWarmUpTime(CG\_WarmUpSrc **Source**, uint16\_t **Time**)
- ◆ void CG\_StartWarmUp(void)
- ◆ WorkState CG\_GetWarmUpState(void)
- ◆ Result CG\_SetPLL(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetPLLState(void)
- ◆ Result CG\_SetFosc(CG\_FoscSrc **Source**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void CG\_SetFoscSrc(CG\_FoscSrc **Source**)
- ◆ CG\_FoscSrc CG\_GetFoscSrc(void)

- ◆ FunctionalState CG\_GetFoscState(CG\_FoscSrc **Source**)
- ◆ Result CG\_SetFs(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetFsState(void)
- ◆ void CG\_SetPortM(CG\_PortMMode **Mode**)
- ◆ void CG\_SetSTBYMode(CG\_STBYMode **Mode**)
- ◆ CG\_STBYMode CG\_GetSTBYMode(void)
- ◆ void CG\_SetExitStopModeFosc(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetExitStopModeFoscState(void)
- ◆ void CG\_SetExitStopModeFs(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetExitStopModeFsState(void)
- ◆ void CG\_SetPinStateInStopMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetPinStateInStopMode(void)
- ◆ Result CG\_SetFcSrc(CG\_FcSrc **Source**)
- ◆ CG\_FcSrc CG\_GetFcSrc(void)
- ◆ Result CG\_SetFsysSrc(CG\_FsysSrc **Source**)
- ◆ CG\_FsysSrc CG\_GetFsysSrc(void)
- ◆ void CG\_SetSTBYReleaseINTSrc(CG\_INTSrc **INTSource**,  
CG\_INTActiveState **ActiveState**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ CG\_INTActiveState CG\_GetSTBYReleaseINTState(CG\_INTSrc **INTSource**)
- ◆ void CG\_ClearINTReq(CG\_INTSrc **INTSource**)
- ◆ CG\_NMIFactor CG\_GetNMIFlag(void)
- ◆ CG\_ResetFlag CG\_GetResetFlag(void)

## 4.2.2 関数の種類

CG API は 3 つのグループに分けられます。

- 1) クロックの種類:  
CG\_SetFgearLevel(), CG\_GetFgearLevel(), CG\_SetPhiT0Src(), CG\_GetPhiT0Src(),  
CG\_SetPhiT0Level(), CG\_GetPhiT0Level(), CG\_SetSCOUTSrc(),  
CG\_GetSCOUTSrc(), CG\_SetWarmUpTime(), CG\_StartWarmUp(),  
CG\_GetWarmUpState(), CG\_SetPLL(), CG\_GetPLLState(), CG\_SetFosc(),  
CG\_SetFoscSrc(), CG\_GetFoscSrc(), CG\_GetFoscState(), CG\_SetFs(),  
CG\_GetFsState(), CG\_SetFcSrc(), CG\_GetFcSrc(), CG\_SetFsysSrc(),  
CG\_GetFsysSrc(), CG\_SetPortM()
- 2) スタンバイモードの設定:  
CG\_SetSTBYMode(), CG\_GetSTBYMode(), CG\_SetExitStopModeFosc(),  
CG\_GetExitStopModeFoscState(), CG\_SetExitStopModeFs(),  
CG\_GetExitStopModeFsState(), CG\_SetPinStateInStopMode(),  
CG\_GetPinStateInStopMode()
- 3) 割り込みの設定など、その他:  
CG\_SetSTBYReleaseINTSrc(), CG\_GetSTBYReleaseINTState(), CG\_ClearINTReq(),  
CG\_GetNMIFlag(), CG\_GetResetFlag()

## 4.2.3 関数仕様

### 4.2.3.1 CG\_SetFgearLevel

fgear, fc 間の分周レベル設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
CG\_SetFgearLevel(CG\_DivideLevel **DivideFgearFromFc**)

引数:

**DivideFgearFromFc**: 以下から、fgear, fc 間の分周レベルを選択します。

- **CG\_DIVIDE\_1:** fgear = fc
- **CG\_DIVIDE\_2:** fgear = fc/2
- **CG\_DIVIDE\_4:** fgear = fc/4
- **CG\_DIVIDE\_8:** fgear = fc/8
- **CG\_DIVIDE\_16:** fgear = fc/16

**機能:**

fgear,fc 間の分周レベルを設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.2 CG\_GetFgearLevel

fgear, fc 間の分周レベルの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_DivideLevel

CG\_GetFgearLevel(void)

**引数:**

なし

**機能:**

fgear,fc 間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved” の場合、**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN** を返します。

**戻り値:**

fgear, fc 間の分周レベルで、下記のいずれかの値になります。

**CG\_DIVIDE\_1:** fgear = fc

**CG\_DIVIDE\_2:** fgear = fc/2

**CG\_DIVIDE\_4:** fgear = fc/4

**CG\_DIVIDE\_8:** fgear = fc/8

**CG\_DIVIDE\_16:** fgear = fc/16

**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN:** invalid data is read

#### 4.2.3.3 CG\_SetPhiT0Src

fsys, fc 間の PhiT0(ΦT0) ソースの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetPhiT0Src(CG\_PhiT0Src **PhiT0Src**)

**引数:**

**PhiT0Src:** 以下から PhiT0 ソースを選択します。

➤ **CG\_PHIT0\_SRC\_FGEAR :** fgear が PhiT0 ソース

➤ **CG\_PHIT0\_SRC\_FC:** fc が PhiT0 ソース

➤ **CG\_PHIT0\_SRC\_FSYS:** fsys が PhiT0 ソース

**機能:**

PhiT0 (ΦT0) ソースを選択します。

戻り値:  
なし

#### 4.2.3.4 CG\_GetPhiT0Src

PhiT0 (ΦT0) ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:  
CG\_PhiT0Src  
CG\_GetPhiT0Src(void)

引数:  
なし

機能:  
PhiT0 (ΦT0) ソースを取得します。

戻り値:  
**CG\_PHIT0\_SRC\_FGEAR** : fgear が PhiT0 ソース  
**CG\_PHIT0\_SRC\_FC**: fc が PhiT0 ソース  
**CG\_PHIT0\_SRC\_FSYS**: fsys が PhiT0 ソース

#### 4.2.3.5 CG\_SetPhiT0Level

Fsys, fc 間の分周レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:  
Result  
CG\_SetPhiT0Level(CG\_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)

引数:  
**DividePhiT0FromFc**: PhiT0 (ΦT0) と fc 間の分周レベルを下記の値から設定します。

- **CG\_DIVIDE\_1**: ΦT0 = fc or fsys
- **CG\_DIVIDE\_2**: ΦT0 = fc/2
- **CG\_DIVIDE\_4**: ΦT0 = fc/4
- **CG\_DIVIDE\_8**: ΦT0 = fc/8
- **CG\_DIVIDE\_16**: ΦT0 = fc/16
- **CG\_DIVIDE\_32**: ΦT0 = fc/32
- **CG\_DIVIDE\_64**: ΦT0 = fc/64
- **CG\_DIVIDE\_128**: ΦT0 = fc/128
- **CG\_DIVIDE\_256**: ΦT0 = fc/256
- **CG\_DIVIDE\_512**: ΦT0 = fc/512

機能:  
プリスケラークロックの分周レベルを設定します。

戻り値:  
**SUCCESS** 設定成功  
**ERROR** エラー

## 4.2.3.6 CG\_GetPhiT0Level

fsys, fc 間の分周レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_DivideLevel

CG\_GetPhiT0Level(void)

引数:

なし

機能:

PhiT0( $\Phi T0$ ), fc 間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved”の場合、**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN** を返します。

戻り値:

PhiT0( $\Phi T0$ ), fc 間の分周レベルを以下から設定します。

**CG\_DIVIDE\_1:**  $\Phi T0 = fc \text{ or } fsys$

**CG\_DIVIDE\_2:**  $\Phi T0 = fc/2$

**CG\_DIVIDE\_4:**  $\Phi T0 = fc/4$

**CG\_DIVIDE\_8:**  $\Phi T0 = fc/8$

**CG\_DIVIDE\_16:**  $\Phi T0 = fc/16$

**CG\_DIVIDE\_32:**  $\Phi T0 = fc/32$

**CG\_DIVIDE\_64:**  $\Phi T0 = fc/64$

**CG\_DIVIDE\_128:**  $\Phi T0 = fc/128$

**CG\_DIVIDE\_256:**  $\Phi T0 = fc/256$

**CG\_DIVIDE\_512:**  $\Phi T0 = fc/512$

**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN:** 無効

## 4.2.3.7 CG\_SetSCOUTSrc

SCOUT ソースクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG\_SetSCOUTSrc(CG\_SCOUTSrc **Source**)

引数:

**Source:** 以下から SCOUT 出力のソースクロックを選択します。

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_FS:** fs

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_HALF\_FSYS:** fsys/2

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_FSYS:** fsys

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_PHIT0:**  $\Phi T0$

機能:

SCOUT 出力のソースクロックを選択します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.8 CG\_GetSCOUTSrc

SCOUT ソースクロックの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

SCOUTSrc

CG\_GetSCOUTSrc(void)

**引数:**

なし

**機能:**

SCOUT ソースクロックを取得します。

**戻り値:**

SCOUT ソースクロック:

- **CG\_SCOUT\_SRC\_FS**: fs
- **CG\_SCOUT\_SRC\_HALF\_FSYS**: fsys/2
- **CG\_SCOUT\_SRC\_FSYS**: fsys
- **CG\_SCOUT\_SRC\_PHIT0**:  $\Phi T0$

#### 4.2.3.9 CG\_SetWarmUpTime

ウォームアップ時間の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetWarmUpTime(CG\_WarmUpSrc **Source**, uint16\_t **Time**)**引数:****Source**: 以下から、ウォームアップカウンタを選択します。

- **CG\_WARM\_UP\_SRC\_EXT\_HIGH**: 外部高速発振
- **CG\_WARM\_UP\_SRC\_INT\_HIGH**: 内部高速発振
- **CG\_WARM\_UP\_SRC\_EXT\_LOW**: 外部低速発振

**Time**: **Source** が CG\_WARM\_UP\_SRC\_LWO の場合は 0U~0x4000U から、それ以外の場合は 0U~0x1000U から選択します。

**機能:**

ウォームアップ時間の設定を行います。設定時間の算出方法は以下です。

$$\text{設定値} = ((\text{ウォームアップ時間}) / (\text{入力クロック})) / 16$$

以下はウォームアップ時間の設定例です。

/\* ウォームアップ時間が 100us で、入力クロックが 8M の場合 \*/

$$\text{設定値} = 100 * 10E(-6) / (1 / (8 * 10E(6))) / 16 = 0x0320 >> 4 = 0x32$$

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.10 CG\_StartWarmUp

ウォームアップの開始

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_StartWarmUp(void)

引数:

なし

機能:

ウォームアップを開始します。

戻り値:

なし

#### 4.2.3.11 CG\_GetWarmUpState

ウォームアップ動作状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

CG\_GetWarmUpState(void)

引数:

なし

機能:

ウォーミングアップ動作状態を確認します。

ウォーミングアップタイマの使用例:

```
CG_SetWarmUpTime(CG_WARM_UP_SRC_OSC1, 0x32);  
/* start warm up */  
CG_StartWarmUp();  
/* check warm up is finished or not*/  
while(CG_GetWarmUpState()==BUSY);
```

戻り値:

ウォームアップ動作状態:

**DONE:** 動作終了

**BUSY:** 動作中

#### 4.2.3.12 CG\_SetPLL

PLL 動作の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG\_SetPLL(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** 以下から選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

PLL 動作の許可/禁止を選択します。

PLL として fc を選択した場合、無効にすることができません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

**SUCCESS**: 成功

**ERROR**: 失敗

#### 4.2.3.13 CG\_GetPLLState

PLL 設定状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG\_GetPLLState(void)

引数:

なし

機能:

PLL 設定状態を確認します。

戻り値:

PLL 設定状態です

**ENABLE**: PLL 有効

**DISABLE**: PLL 無効

#### 4.2.3.14 CG\_SetFosc

高速発振器(osc1 or osc2)の有効/無効

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG\_SetFosc(CG\_FoscSrc **Source**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**Source**: 以下から fosc のソースクロックを選択します。

- **CG\_FOSC\_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG\_FOSC\_IHOSC**: 外部低速発振

**NewState**: 以下から、fosc の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効
- **DISABLE**: 無効

機能:

高速発振器の有効/無効を選択します。

fgear と system clock (fsys) が選択されている場合、高速発振器 (fosc) は無効にできません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

**SUCCESS**: 成功



ERROR: 失敗

## 4.2.3.15 CG\_SetFoscSrc

高速発振器(fosc)のソース設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetFoscSrc(CG_FoscSrc Source)
```

引数:

**Source**: fosc のソースを選択します。

- **CG\_FOSC\_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG\_FOSC\_IHOSC**: 外部低速発振

機能:

高速発振器(fosc)のソースを設定します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.16 CG\_GetFoscSrc

高速発振器(fosc)ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
CG_FoscSrc  
CG_GetFoscSrc(void)
```

引数:

なし

機能:

高速発振器ソースを取得します。

戻り値:

fosc のソース

- **CG\_FOSC\_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG\_FOSC\_IHOSC**: 外部低速発振

## 4.2.3.17 CG\_GetFoscState

高速発振器(fosc)の状態

関数のプロトタイプ宣言:

```
FunctionalState  
CG_GetFoscState(CG_FoscSrc Source)
```

引数:

**Source**: 以下から fosc のソースを選択します。

- **CG\_FOSC\_EHOSC**: 外部高速発振

- **CG\_FOSC\_IHOSC**: 外部低速発振

**機能:**

高速発振器の状態を取得します。

**戻り値:**

fosc の状態

**ENABLE**: 有効

**DISABLE**: 無効

#### 4.2.3.18 CG\_SetFs

低速クロック(fs)の有効/無効

**関数のプロトタイプ宣言:**

Result

CG\_SetFs(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState**: 以下から、fs の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効

- **DISABLE**: 無効

**機能:**

低速発振器(fs)の有効/無効を選択します。

system clock (fsys)として fs が選択されている場合、低速発振器 (fs) は無効にできません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

**戻り値:**

**SUCCESS**: 成功

**ERROR**: 失敗

#### 4.2.3.19 CG\_GetFsState

低速発振器(fs)の状態

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

CG\_GetFsState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

低速発振器(fs)の状態を取得します。

**戻り値:**

fs の状態

**ENABLE**: 有効

**DISABLE**: 無効

## 4.2.3.20 CG\_SetPortM

ポート M の設定(X1/X2 または汎用ポート)

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetPortM(CG_PortMMode Mode)
```

引数:

**Mode:**

- **CG\_PORTM\_AS\_GPIO**: 汎用ポート
- **CG\_PORTM\_AS\_HOSC**: X1/X2

機能:

ポート M の設定を行います。**Mode** が **CG\_PORTM\_AS\_GPIO** の時は汎用ポート、**Mode** が **CG\_PORTM\_AS\_HOSC** の時は X1/X2 に設定します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.21 CG\_SetSTBYMode

スタンバイモードの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetSTBYMode(CG_STBYMode Mode)
```

引数:

**Mode:** 以下からスタンバイモードを選択します。

- **CG\_STBY\_MODE\_STOP**: STOP モード(内部発振器含めてすべての内部回路が停止します)
- **CG\_STBY\_MODE\_SLEEP**: SLEEP モード(fs と RMC のみ動作します)
- **CG\_STBY\_MODE\_IDLE**: IDLE モード(CPU のみ停止します)

機能:

スタンバイ命令実行後の低消費電力モードを選択します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.22 CG\_GetSTBYMode

スタンバイモード設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
CG_STBYMode  
CG_GetSTBYMode(void)
```

引数:

なし

**機能:**

スタンバイモードの設定状態を取得します。

設定状態が “Reserved” の場合、戻り値は “CG\_STBY\_MODE\_UNKNOWN” です。

**戻り値:**

低消費電力モード

**CG\_STBY\_MODE\_STOP:** STOP モード

**CG\_STBY\_MODE\_SLEEP:** SLEEP モード

**CG\_STBY\_MODE\_IDLE:** IDLE モード

**CG\_STBY\_MODE\_UNKNOWN:** 無効データ

#### 4.2.3.23 CG\_SetExitStopModeFosc

STOP モード解除後の自動高速発振設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetExitStopModeFosc(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:**

- **ENABLE** : 発振
- **DISABLE** : 停止

**機能:**

STOP モード解除後の自動高速発振を設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.24 CG\_GetExitStopModeFoscState

STOP モード解除後の自動高速発振設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

CG\_GetExitStopModeFoscState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

STOP モード解除後の自動高速発振設定状態を取得します。

**戻り値:**

**ENABLE:** 発振

**DISABLE:** 停止

#### 4.2.3.25 CG\_SetExitStopModeFs

STOP モード解除後の自動低速発振設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
CG\_SetExitStopModeFs(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:**

- **ENABLE** : 発振
- **DISABLE**: 停止

**機能:**

STOP モード解除後の自動低速発振を設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.26 CG\_GetExitStopModeFsState

STOP モード解除後の自動低速発振設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState  
CG\_GetExitStopModeFsState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

STOP モード解除後の自動低速発振設定状態の取得

**戻り値:**

- ENABLE**: 発振
- DISABLE**: 停止

#### 4.2.3.27 CG\_SetPinStateInStopMode

STOP モード中の端子状態の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
CG\_SetPinStateInStopMode(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:**

- **DISABLE**: STOP モード中端子をドライブしません。(<DRVE>=0)
- **ENABLE**: STOP モード中端子をドライブします(<DRVE>=1)

STOP1 モード中の端子状態制御については、MCU データシートの“低消費電力モード”を参照してください。

**機能:**

STOP モード中の端子状態を設定します。

戻り値:  
なし

## 4.2.3.28 CG\_GetPinStateInStopMode

STOP モード中の端子状態設定の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG\_GetPinStateInStopMode (void)

引数:

なし

機能:

STOP モード中の端子状態設定を取得します。

戻り値:

**DISABLE:** STOP モード中端子をドライブしません。(<DRVE>=0)

**ENABLE:** STOP モード中端子をドライブします。(<DRVE>=1)

## 4.2.3.29 CG\_SetFcSrc

fc ソースクロック選択

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG\_SetFcSrc(CG\_FcSrc **Source**)

引数:

**Source:** 以下から、fc ソースクロックを選択します。

- **CG\_FC\_SRC\_FOSC**: fosc
- **CG\_FC\_SRC\_FPLL**: fPLL

機能:

fc ソースクロックを選択します。

本 API をコールする前に以下の状態になっていることを確認してください。

- a) 高速発振器を選択している
- b) a)かつ **Source** が **CG\_FC\_SRC\_FPLL** の場合、PLL が有効  
("CG\_SetPLL(ENABLE)") になっている。

上記状態になっていない場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

**SUCCESS:** 成功

**ERROR:** 無効

## 4.2.3.30 CG\_GetFcSrc

fc ソースクロック設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_FcSrc  
CG\_GetFosc (void)

引数:  
なし

機能:  
fc ソースクロック設定状態を取得します。

戻り値:  
**CG\_FC\_SRC\_FOSC:** fosc  
**CG\_FC\_SRC\_FPLL:** fPLL

#### 4.2.3.31 CG\_SetFsysSrc

fsys ソースクロック選択

関数のプロトタイプ宣言:  
Result  
CG\_SetFsysSrc (CG\_FsysSrc **Source**)

引数:  
**Source:** 以下から、fsys ソースクロックを選択します。  
➤ **CG\_FC\_SRC\_FGEAR:** fgear  
➤ **CG\_FC\_SRC\_FS:** fs

機能:  
fsys ソースクロックを選択します。  
**CG\_FSYS\_SRC\_FGEAR** を選択する場合、高速発振器(X1)が既に発振していることを、また **CG\_FSYS\_SRC\_FS** を選択する場合、低速発振器(XT1)が既に発振していることを確認してください。  
上記状態になっていない場合戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:  
**SUCCESS:** 成功  
**ERROR:** 無効

#### 4.2.3.32 CG\_GetFsysSrc

fsys ソースクロック設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:  
CG\_FsysSrc  
CG\_GetFsysSrc (void)

引数:  
なし

機能:  
fsys ソースクロック設定状態を取得します。

戻り値:

CG\_FSYS\_SRC\_FGEAR : fgear  
CG\_FSYS\_SRC\_FS : fs.

## 4.2.3.33 CG\_SetSTBYReleaseINTSrc

スタンバイモードの解除割り込みソースの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetSTBYReleaseINTSrc (CG_INTSrc INTSource,  
                          CG_INTActiveState ActiveState,  
                          FunctionalState NewState)
```

引数:

**INTSource**: 以下から、スタンバイモードの解除割り込みソースを選択します。

- CG\_INT\_SRC\_0: INT0
- CG\_INT\_SRC\_1: INT1
- CG\_INT\_SRC\_2: INT2
- CG\_INT\_SRC\_3: INT3
- CG\_INT\_SRC\_4: INT4
- CG\_INT\_SRC\_5: INT5
- CG\_INT\_SRC\_6: INT6 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_7: INT7 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_8: INT8
- CG\_INT\_SRC\_9: INT9 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_A: INTA (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_B: INTB (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_C: INTC (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_D: INTD (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_E: INTE (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_F: INTF
- CG\_INT\_SRC\_RTC: RTC 割り込み
- CG\_INT\_SRC\_RMC\_RX: RMC 受信割り込み

**ActiveState**: 以下から、解除トリガのアクティブ状態を選択します。

- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_L: Low レベル
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_H: High レベル
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_FALLING: 立下りエッジ
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_RISING: 立ち上がりエッジ
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_BOTH\_EDGES: 両エッジ

**NewState**: 以下から、解除トリガの許可/禁止を選択します。

- ENABLE: 許可
- DISABLE: 禁止

機能:

スタンバイモードの解除割り込みソースを設定します。

戻り値:

なし



## 4.2.3.34 CG\_GetSTBYReleaseINTState

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_INT\_ActiveState

CG\_GetSTBYReleaseINTSrc(CG\_INTSrc *INTSource*)

引数:

*INTSource*: 以下から、解除割り込みソースを選択します。

- CG\_INT\_SRC\_0: INT0
- CG\_INT\_SRC\_1: INT1
- CG\_INT\_SRC\_2: INT2
- CG\_INT\_SRC\_3: INT3
- CG\_INT\_SRC\_4: INT4
- CG\_INT\_SRC\_5: INT5
- CG\_INT\_SRC\_6: INT6 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_7: INT7 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_8: INT8
- CG\_INT\_SRC\_9: INT9 (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_A: INTA (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_B: INTB (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_C: INTC (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_D: INTD (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_E: INTE (TMPM383 は選択できません)
- CG\_INT\_SRC\_F: INTF
- CG\_INT\_SRC\_RTC: RTC 割り込み
- CG\_INT\_SRC\_RMC\_RX: RMC 受信割り込み

機能:

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態を取得します。

戻り値:

- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_FALLING: 立下りエッジ
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_RISING: 立ち上がりエッジ
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_BOTH\_EDGES: 両エッジ
- CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_INVALID: 無効

## 4.2.3.35 CG\_ClearINTReq

スタンバイ解除割り込み要求のクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG\_ClearINTReq(CG\_INTSrc *INTSource*)

引数:

*INTSource*: 以下から、解除割り込みソースを選択します。

- CG\_INT\_SRC\_0: INT0
- CG\_INT\_SRC\_1: INT1
- CG\_INT\_SRC\_2: INT2
- CG\_INT\_SRC\_3: INT3
- CG\_INT\_SRC\_4: INT4

- **CG\_INT\_SRC\_5:** INT5
- **CG\_INT\_SRC\_6:** INT6 (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_7:** INT7 (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_8:** INT8
- **CG\_INT\_SRC\_9:** INT9 (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_A:** INTA (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_B:** INTB (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_C:** INTC (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_D:** INTD (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_E:** INTE (TMPM383 は選択できません)
- **CG\_INT\_SRC\_F:** INTF
- **CG\_INT\_SRC\_RTC:** RTC 割り込み
- **CG\_INT\_SRC\_RMC\_RX:** RMC 受信割り込み

**機能:**

スタンバイ解除割り込み要求をクリアします。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.36 CG\_GetNMIFlag

NMI フラグの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_NMIFactor

CG\_GetNMIFlag (void)

**引数:**

なし

**機能:**

NMI フラグを取得します。

**戻り値:**

**WDT (Bit 0) :** WDT による NMI 発生

#### 4.2.3.37 CG\_GetResetFlag

リセットフラグの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_ResetFlag

CG\_GetResetFlag(void)

**引数:**

なし

**機能:**

リセットフラグを取得します。

戻り値:

**PowerOn** (Bit 0) : パワーオンリセット

**ResetPin** (Bit 1) : 端子リセット

**WDTReset** (Bit 2) : WDT リセット

**DebugReset** (Bit 4) : SYSRESETREQ によるリセット

**OFDReset** (Bit 5) : OFD リセット

## 4.2.4 データ構造

### 4.2.4.1 CG\_NMIFactor

メンバ:

uint32\_t

**All** NMI 要因フラグです。

ビットフィールド:

uint32\_t

**WDT**(Bit 0) WDT による NMI 発生

uint32\_t

**Reserved0** 予約

### 4.2.4.2 CG\_ResetFlag

メンバ:

uint32\_t

**All** リセット要因フラグです。

ビットフィールド:

uint32\_t

**PowerOn** 1 Power On Reset フラグ

uint32\_t

**ResetPin** 1 RESET 端子フラグ

uint32\_t

**WDTReset**1 WDT リセットフラグ

uint32\_t

**Reserved0**1 予約

uint32\_t

**DebugReset** 1 デバッグリセットフラグ

uint32\_t

**OFDReset** 1 OFD リセットフラグ

uint32\_t

**Reserved0**26 予約

## 5. DNF

### 5.1 概要

デジタル式のノイズキャンセラ回路により、外部割り込み端子に入力される信号を所定の幅でノイズを除去することができます。

DNFドライバ API は、ノイズフィルタクロックの設定、ノイズフィルタ割り込みの状態、ノイズフィルタ割り込みの設定などの機能を提供します。

本ドライバ API は、アプリケーションで使用する API 定義を含む以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm38x\_dnf.c  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm38x\_dnf.h

### 5.2 API 関数一覧

#### 5.2.1 関数一覧

- ◆ void DNF\_SetFilterClk(uint32\_t **FilterClk**)
- ◆ uint32\_t DNF\_GetFilterClk(void)
- ◆ void DNF\_SetInt0Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt0FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt1Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt1FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt2Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt2FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt3Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt3FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt4Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt4FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt5Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt5FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt6Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt6FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetInt7Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt7FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetInt8Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt8FilterState(void)
- ◆ void DNF\_SetInt9Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetInt9FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetIntAFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntAFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetIntBFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntBFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetIntCFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntCFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF\_SetIntDFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntDFilterState(void) (Only for TMPM381)

- ◆ void DNF\_SetIntEFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TPM381)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntEFilterState(void) (Only for TPM381)
- ◆ void DNF\_SetIntFFilter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF\_GetIntFFilterState(void)

## 5.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。

1) ノイズフィルタクロックの選択:

DNF\_SetFilterClk(), DNF\_GetFilterClk()

2) ノイズフィルタ割り込みの設定:

DNF\_SetInt0Filter(), DNF\_GetInt0FilterState(), DNF\_SetInt1Filter(),  
DNF\_GetInt1FilterState(), DNF\_SetInt2Filter(), DNF\_GetInt2FilterState(),  
DNF\_GetInt3FilterState(), DNF\_SetInt4Filter(), DNF\_GetInt4FilterState(),  
DNF\_SetInt5Filter(), DNF\_GetInt5FilterState(), DNF\_SetInt6Filter(),  
DNF\_GetInt6FilterState(), DNF\_SetInt7Filter(), DNF\_GetInt7FilterState(),  
DNF\_SetInt8Filter(), DNF\_GetInt8FilterState(), DNF\_SetInt9Filter(),  
DNF\_GetInt9FilterState(), DNF\_SetIntAFilter(), DNF\_GetIntAFilterState(),  
DNF\_SetIntBFilter(), DNF\_GetIntBFilterState(), DNF\_SetIntCFilter(),  
DNF\_GetIntCFilterState(), DNF\_SetIntDFilter(), DNF\_GetIntDFilterState(),  
DNF\_SetIntEFilter(), DNF\_GetIntEFilterState(), DNF\_SetIntFFilter(),  
DNF\_GetIntFFilterState()

TPM383 の場合、下記 API は使用できません。

DNF\_SetInt6Filter(), DNF\_GetInt6FilterState(), DNF\_SetInt7Filter(),  
DNF\_GetInt7FilterState(), DNF\_SetInt9Filter(), DNF\_GetInt9FilterState(),  
DNF\_SetIntAFilter(), DNF\_GetIntAFilterState(), DNF\_SetIntBFilter(),  
DNF\_GetIntBFilterState(), DNF\_SetIntCFilter(), DNF\_GetIntCFilterState(),  
DNF\_SetIntDFilter(), DNF\_GetIntDFilterState(), DNF\_SetIntEFilter(),  
DNF\_GetIntEFilterState().

## 5.2.3 関数仕様

### 5.2.3.1 DNF\_SetFilterClk

ノイズクロックフィルタクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void  
DNF\_SetFilterClk(uint32\_t **FilterClk**)

引数:

**FilterClk**: 以下のいずれかのノイズフィルタクロックを選択します。

- DNF\_FILTER\_CLK\_STOP: クロック制御回路停止
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_2: fsys/2 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_4: fsys/4 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_8: fsys/8 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_16: fsys/16 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_32: fsys/32 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_64: fsys/64 クロック出力
- DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_128: fsys/128 クロック出力

機能:

ノイズフィルタクロックを選択します。

戻り値:  
なし

## 5.2.3.2 DNF\_GetFilterClk

ノイズフィルタクロックの選択状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:  
uint32\_t  
DNF\_GetFilterClk(void)

引数:  
なし

機能:  
ノイズフィルタクロックの選択状態を取得します。

戻り値:  
ノイズフィルタクロックの選択状態:  
DNF\_FILTER\_CLK\_STOP: クロック制御回路停止  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_2: fsys/2 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_4: fsys/4 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_8: fsys/8 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_16: fsys/16 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_32: fsys/32 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_64: fsys/64 クロック出力  
DNF\_FILTER\_CLK\_FSYS\_128: fsys/128 クロック出力

## 5.2.3.3 DNF\_SetInt0Filter

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
DNF\_SetInt0Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:  
**NewState**: INT0 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。  
➤ **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)  
➤ **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:  
INT0 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:  
なし

## 5.2.3.4 DNF\_GetInt0FilterState

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetInt0FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.5 DNF\_SetInt1Filter

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetInt1Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INT1 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

## 5.2.3.6 DNF\_GetInt1FilterState

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetInt1FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.7 DNF\_SetInt2Filter

INT2 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetInt2Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INT2 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT2 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

## 5.2.3.8 DNF\_SetInt3Filter

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetInt3Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INT3 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT3 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

## 5.2.3.9 DNF\_GetInt3FilterState

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得



**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState  
DNF\_GetInt3FilterState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

**戻り値:**

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.10 DNF\_SetInt4Filter

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
DNF\_SetInt4Filter(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** INT4 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

**機能:**

INT4 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

**戻り値:**

なし

## 5.2.3.11 DNF\_GetInt4FilterState

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState  
DNF\_GetInt4FilterState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.12 DNF\_SetInt5Filter

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetInt5Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INT5 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

## 5.2.3.13 DNF\_GetInt5FilterState

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetInt5FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.14 DNF\_SetInt6Filter

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
DNF\_SetInt6Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: INT6 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

## 5.2.3.15 DNF\_GetInt6FilterState

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState  
DNF\_GetInt6FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.16 DNF\_SetInt7Filter

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
DNF\_SetInt7Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: INT7 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

**機能:**

INT7 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

なし

### 5.2.3.17 DNF\_GetInt7FilterState

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

DNF\_GetInt7FilterState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

### 5.2.3.18 DNF\_SetInt8Filter

INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

DNF\_SetInt8Filter(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** INT8 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

**機能:**

INT8 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:  
なし

## 5.2.3.19 DNF\_GetInt8FilterState

INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:  
FunctionalState  
DNF\_GetInt8FilterState(void)

引数:  
なし

機能:  
INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:  
TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:  
INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:  
**ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)  
**DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP  
モード解除時)

## 5.2.3.20 DNF\_SetInt9Filter

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
DNF\_SetInt9Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:  
**NewState**: INT9 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。  
➤ **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)  
➤ **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、  
STOP モード解除時)

機能:  
INT9 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:  
TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:  
なし

## 5.2.3.21 DNF\_GetInt9FilterState

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetInt9FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.22 DNF\_SetIntAFilter

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetIntAFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INTA ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTA ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

## 5.2.3.23 DNF\_GetIntAFilterState

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetIntAFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.24 DNF\_SetIntBFilter

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF\_SetIntBFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState:** INTB ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTB ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

## 5.2.3.25 DNF\_GetIntBFilterState

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetIntBFilterState(void)

引数:

なし

**機能:**

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.26 DNF\_SetIntCFilter

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

DNF\_SetIntCFilter(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** INTC ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

**機能:**

INTC ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

なし

## 5.2.3.27 DNF\_GetIntCFilterState

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

DNF\_GetIntCFilterState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

**戻り値:**

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態:



**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.28 DNF\_SetIntDFilter

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
DNF_SetIntDFilter(FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**NewState:** INTD ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

**機能:**

INTD ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

なし

## 5.2.3.29 DNF\_GetIntDFilterState

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
FunctionalState  
DNF_GetIntDFilterState(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

**補足:**

TMPM383 では本 API は未サポートです。

**戻り値:**

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.30 DNF\_SetIntEFilter

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DNF_SetIntEFilter(FunctionalState NewState)
```

引数:

**NewState**: INTE ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTE ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

## 5.2.3.31 DNF\_GetIntEFilterState

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
FunctionalState  
DNF_GetIntEFilterState(void)
```

引数:

なし

機能:

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

## 5.2.3.32 DNF\_SetIntFFilter

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
```

DNF\_SetIntFFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: INTF ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTF ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

### 5.2.3.33 DNF\_GetIntFFilterState

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF\_GetIntFFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

**ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

**DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

### 5.2.4 データ構造

なし

## 6. FC

### 6.1 概要

本デバイスは、フラッシュメモリを内蔵しています。  
フラッシュメモリのサイズは、TMPM38xFW が 128Kbyte、TMPM38xFS が 64Kbyte です。

オンボードプログラミングにおいて、CPU はソフトウェアを実行し、flash メモリへのデータ書き込み / 削除を行います。データ書き込み / 削除は JEDEC 標準型コマンドに従って行います。また、Flash メモリをモニターするレジスタを提供し、各ブロックのプロテクション状態の表示、セキュリティ機能の設定を行います。

ブロック構成は、デバイスのデータシートを参照してください。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

Libraries\TX03\_Periph\_Driver\src\tmpm38x\_fc.c  
Libraries\TX03\_Periph\_Driver\inc\tmpm38x\_fc.h

### 6.2 API 関数

#### 6.2.1 関数一覧

- ◆ void FC\_SetBufferState(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void FC\_SetSecurityBit(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState FC\_GetSecurityBit(void)
- ◆ WorkState FC\_GetBusyState(void)
- ◆ void FC\_SetBlockProtectMask(uint8\_t **BlockNum**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState FC\_GetBlockProtectMaskState(uint8\_t **BlockNum**)
- ◆ FunctionalState FC\_GetBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)
- ◆ FC\_Result FC\_ProgramBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseBlockProtectState(uint8\_t **BlockGroup**)
- ◆ FC\_Result FC\_WritePage(uint32\_t **PageAddr**, uint32\_t \* **Data**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseBlock(uint32\_t **BlockAddr**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseChip(void)

#### 6.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 7 種類に分かれています。

- 1) セキュリティ設定(Flash ROM データの読み出し、デバッグ):  
FC\_SetSecurityBit(), FC\_GetSecurityBit()
- 2) 自動動作状態およびプロテクト状態の取得:  
FC\_GetBusyState(), FC\_GetBlockProtectState()
- 3) プロテクトの設定:  
FC\_ProgramBlockProtectState(), FC\_EraseBlockProtectState()
- 4) 自動実行コマンド(書き込み、チップ消去、ブロック消去):  
FC\_WritePage(), FC\_EraseBlock(), FC\_EraseChip()
- 5) Flash I/F の制御:  
FC\_SetBufferState()
- 6) プロテクトビットマスクの選択:

- FC\_SetBlockProtectMask()  
7) プロテクトビットマスク状態の取得:  
FC\_GetBlockProtectMaskState()

## 6.2.3 関数仕様

### 6.2.3.1 FC\_SetBufferState

FCCR レジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
FC\_SetBufferState(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: FCCR レジスタを使用して命令バッファの有効/無効を選択します。

- **DISABLE**: 命令バッファ無効(同時に命令バッファクリアを行います。)
- **ENABLE**: 命令バッファ有効

機能:

Flash ROM の書き込み、または消去後、本 API を使用して命令バッファをクリアしてください。

戻り値:

なし

### 6.2.3.2 FC\_SetSecurityBit

セキュリティビットの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
FC\_SetSecurityBit (FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: セキュリティビットを設定します。

- **DISABLE**: セキュリティ機能設定不可
- **ENABLE**: セキュリティビット設定可能

機能:

1) 書き込み/消去プロテクト用のすべてのプロテクトビット (PSRA<BLn>, n=0,1)を”1”にします。

2) FCSECBIT<SECBIT>を”1”にします。

上記の 2 つの条件が成立すると、セキュリティ機能が有効になります。セキュリティ機能が有効な状態の制限内容は次の通りです。

- ROM 領域のデータの読み出し。
- JTAG/SW、トレースの通信

したがって、この API を使用する場合は、注意して実行してください。

FCSECBIT<SECBIT>はパワーオンリセットで初期化されます。

戻り値:

なし

### 6.2.3.3 FC\_GetSecurityBit

セキュリティビットの設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC\_GetSecurityBit(void)

引数:

なし

機能:

セキュリティビットの設定状態を取得します。

戻り値:

**DISABLE:** セキュリティ機能設定不可

**ENABLE:** セキュリティビット設定可能

### 6.2.3.4 FC\_GetBusyState

自動動作状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

FC\_GetBusyState (void)

引数:

なし

機能:

自動動作状態を取得します。

戻り値:

**BUSY:** 自動動作中

**DONE:** 自動動作終了

### 6.2.3.5 FC\_SetBlockProtectMask

プロテクトビットマスクの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

FC\_SetBlockProtectMask(uint8\_t **BlockNum**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**BlockNum:** ブロック番号を選択します。

➤ **FC\_BLOCK\_0** block 0

➤ **FC\_BLOCK\_1** block 1

- **FC\_BLOCK\_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC\_BLOCK\_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

**NewState:** プロテクトビットをマスクする/マスクしないのいずれかを選択します。

- **DISABLE:** プロテクトビットをマスクしない
- **ENABLE:** プロテクトビットをマスクする

**機能:**

各ブロックのプロテクト状態を一時的にマスクします。プロテクトマスク状態の時にはブロック書き込み、ブロック消去ができます。

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.6 FC\_GetBlockProtectMaskState

プロテクトビットのマスク状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

FC\_GetBlockProtectMaskState(uint8\_t **BlockNum**)

**引数:**

**BlockNum:** ブロック番号を選択します。

- **FC\_BLOCK\_0** block 0
- **FC\_BLOCK\_1** block 1
- **FC\_BLOCK\_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC\_BLOCK\_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

**機能:**

各ブロックのプロテクトマスク状態を取得します。

**戻り値:**

**DISABLE:** プロテクトビットはマスク状態ではない

**ENABLE:** プロテクトビットはマスク状態

## 6.2.3.7 FC\_GetBlockProtectState

ブロックのプロテクト状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

FC\_GetBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)

**引数:**

**BlockNum:** ブロック番号を選択します。

- **FC\_BLOCK\_0** block 0
- **FC\_BLOCK\_1** block 1
- **FC\_BLOCK\_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC\_BLOCK\_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

**機能:**

各ブロックのプロテクト状態を示します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

**DISABLE:** プロテクト状態ではない

**ENABLE:** プロテクト状態

## 6.2.3.8 FC\_ProgramBlockProtectState

ブロックのプロテクト設定

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_ProgramProtectState(uint8\_t **BlockNum**)

引数:

**BlockNum:** ブロック番号を選択します。

- **FC\_BLOCK\_0** block 0
- **FC\_BLOCK\_1** block 1
- **FC\_BLOCK\_2** block 2 (TMPM38xFS では使用できません。)
- **FC\_BLOCK\_3** block 3 (TMPM38xFS では使用できません。)

機能:

ブロックプロテクトを設定します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

**FC\_SUCCESS:** プロテクト設定の成功

**FC\_ERROR\_PROTECTED:** プロテクト設定の失敗(すでにプロテクト済の場合は再度プロテクト設定を行いません)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME:** プロテクト設定の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 6.2.3.9 FC\_EraseBlockProtectState

プロテクトの解除

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_EraseBlockProtectState(uint8\_t **BlockGroup**)

引数:

**BlockGroup:** ブロックグループを指定してください。

- **FC\_BLOCK\_GROUP\_0** すべてのブロック

機能:

プロテクトビットを"0"にすることでプロテクトを解除します。

戻り値:

**FC\_SUCCESS:** プロテクト解除の成功

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME:** プロテクト解除の失敗(自動動作のタイムアウト)



## 6.2.3.10 FC\_WritePage

ページ単位の書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result  
FC_WritePage(uint32_t PageAddr,  
              uint32_t * Data)
```

引数:

**PageAddr**: ページの開始アドレスを指定します。

**Data**: 書き込むデータバッファへのポインタを指定します。サイズは 128Byte です。

機能:

ページ書き込みを行います。

自動ページ書き込みは、既に消去された 1 ページにつき一回のみ実施されます。データ値が“1” または “0”のいずれかであっても、2 回以上書き込みを実施することはありません。

補足: あらかじめデータを消去せずに書き込みを行うと、デバイスに損傷を与える恐れがあります。

戻り値:

**FC\_SUCCESS**: 書き込み成功

**FC\_ERROR\_PROTECTED**: 書き込み失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME**: 書き込みの失敗(自動動作のタイムアウト)

## 6.2.3.11 FC\_EraseBlock

ブロック単位の消去

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result  
FC_EraseBlock(uint32_t BlockAddr)
```

引数:

**BlockAddr**: ブロック開始アドレスを指定します。

機能:

ブロック単位の消去を行います。プロテクトされていないブロックに対してのみ消去を行います。

戻り値:

**FC\_SUCCESS**: 消去成功

**FC\_ERROR\_PROTECTED**: 消去失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME**: 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 6.2.3.12 FC\_EraseChip

チップ消去

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result
```

FC\_EraseChip(void)

引数:

なし

機能:

チップ消去を行います。ブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

戻り値:

**FC\_SUCCESS:** チップ消去成功。ただしブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

**FC\_ERROR\_PROTECTED:** 消去失敗(すべてのブロックにプロテクトが設定されている)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME:** 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 6.2.4 データ構造

なし

## 7. FUART

### 7.1 概要

本デバイスは非同期のシリアルチャネル (Full UART)とモデム制御を 1 チャネル内蔵しています。

FUARTドライバ API は、Full UART チャネルを構成する機能、たとえばボーレート、ビット長、パリティチェック、ストップビット、フロー制御、などの共通パラメータを提供します。また、データの送信/受信、エラーチェックなどのような転送を制御します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm38x\_fuart.c

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm38x\_fuart.h

### 7.2 API 関数

#### 7.2.1 関数一覧

- ◆ void FUART\_Enable(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_Disable(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ uint32\_t FUART\_GetRxData(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_SetTxData(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**, uint32\_t **Data**)
- ◆ FUART\_Err FUART\_GetErrStatus(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_ClearErrStatus(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ WorkState FUART\_GetBusyState(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ FUART\_StorageStatus FUART\_GetStorageStatus( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FUART\_Direction **Direction**)
- ◆ void FUART\_Init( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**, FUART\_InitTypeDef \* **InitStruct**)
- ◆ void FUART\_EnableFIFO(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_DisableFIFO(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_SetSendBreak(  
TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void FUART\_SetINTFIFOLevel( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
uint32\_t **RxLevel**, uint32\_t **TxLevel**)
- ◆ void FUART\_SetINTMask(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**, uint32\_t **IntMaskSrc**)
- ◆ FUART\_INTStatus FUART\_GetINTMask(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ FUART\_INTStatus FUART\_GetRawINTStatus(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ FUART\_INTStatus FUART\_GetMaskedINTStatus(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_ClearINT( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FUART\_INTStatus **INTStatus**)
- ◆ void FUART\_EnableLoopBack(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_DisableLoopBack(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_EnableDuty(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_DisableDuty(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)
- ◆ void FUART\_SetPeriodDetection( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
uint32\_t **PeriodDetection**)
- ◆ void FUART\_SetTxTerminalMode( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
uint32\_t **TxTerminalMode**)
- ◆ void FUART\_SetStartBitTerminal( TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,

uint32\_t StartBitTerminal)

## 7.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。:

- 1) Full UART 構成と初期化、共通動作:  
FUART\_Enable(), FUART\_Disable, FUART\_Init(), FUART\_GetRxData(),  
FUART\_SetTxData(), FUART\_GetErrStatus(), FUART\_ClearErrStatus(),  
FUART\_GetBusyState(), FUART\_GetStorageStatus(), FUART\_SetSendBreak()
- 2) FIFO と DMA の設定.  
FUART\_EnableFIFO(), FUART\_DisableFIFO(), FUART\_SetINTFIFOLevel()
- 3) 割り込み設定、割り込みステータスとクリア  
FUART\_SetINTMask(), FUART\_GetINTMask(), FUART\_GetRawINTStatus(),  
FUART\_GetMaskedINTStatus, FUART\_ClearINT()
- 4) モデム制御  
FUART\_GetModemStatus()
- 5) 50%デューティーモード制御  
FUART\_EnableLoopBack(), FUART\_DisableLoopBack(), FUART\_EnableDuty(),  
FUART\_DisableDuty(), FUART\_SetPeriodDetection(),  
FUART\_SetTxTerminalMode(), FUART\_SetStartBitTerminal()

## 7.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ “TSB\_FUART\_TypeDef\* **FUARTx**” は、**FUART0** を指定してください。

### 7.2.3.1 FUART\_Enable

Full UART チャンネルの有効化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_Enable(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

Full UART チャンネルを有効にします。

戻り値:

なし

### 7.2.3.2 FUART\_Disable

Full UART チャンネルの無効化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_Disable(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**機能:**

Full UART チャンネルを無効にします。

**戻り値:**

なし

### 7.2.3.3 FUART\_GetRxData

受信データの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint32_t  
FUART_GetRxData(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

**引数:**

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**機能:**

受信データを取得します。

本 API は、**FUART\_GetStorageStatus(FUARTx, FUART\_RX)**の戻り値が **FUART\_STORAGE\_NORMAL** あるいは **FUART\_STORAGE\_FULL** の場合に使用してください。

**戻り値:**

受信データ

### 7.2.3.4 FUART\_SetTxData

送信データの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
FUART_SetTxData(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                uint32_t Data)
```

**引数:**

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**Data**: 送信データポインタです。データサイズは 0x00 - 0xFF です。

**機能:**

送信用にデータを設定し、**FUARTx** で選択された Full UART チャンネル経由で送信を開始します。

**戻り値:**

なし

### 7.2.3.5 FUART\_GetErrStatus

受信エラーステータスの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FUART\_Err  
FUART\_GetErrStatus(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

本 API は、データ転送後にエラーステータスを取得します。そのため本 API は、**FUART\_GetRxData(FUARTx)**の後に実行してください。ただし、このリードシーケンスはエラーステータス情報を取得した直後のみ実行可能です。

戻り値:

**FUART\_NO\_ERR**: エラーはありません

**FUART\_OVERRUN**: オーバーランエラー

**FUART\_PARITY\_ERR**: パリティエラー

**FUART\_FRAMING\_ERR**: フレミングエラー

**FUART\_BREAK\_ERR**: ブレークエラー

**FUART\_ERRS**: 2 つ以上のエラー

### 7.2.3.6 FUART\_ClearErrStatus

受信エラーステータスのクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void  
FUART\_ClearErrStatus(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

フレミングエラー、パリティエラー、ブレークエラー、オーバーランエラーの各エラーがクリアされます。

戻り値:

なし

### 7.2.3.7 FUART\_GetBusyState

データ送信状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState  
FUART\_GetBusyState(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

データ送信中であるか停止中であるか状態を取得します。

戻り値:  
データ送信状態:  
**BUSY**: データ送信中。  
**DONE**: データ送信が停止中

## 7.2.3.8 FUART\_GetStorageStatus

送受信 FIFO または送受信保持レジスタの取得

関数のプロトタイプ宣言:  
FUART\_GetStorageStatus(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FUART\_Direction **Direction**)

引数:  
**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。  
**Direction**: 送信または受信のどちらかを選択します。  
➤ **FUART\_RX**: 受信 FIFO または受信保持レジスタ  
➤ **FUART\_TX**: 送信 FIFO または送信保持レジスタ

機能:  
FIFO が許可されている場合、送受信 FIFO のステータスを取得します。  
FIFO が 禁止されている場合、送受信保持レジスタのステータスを取得します。

戻り値:  
**FUART\_STORAGE\_EMPTY**: FIFO または保持レジスタが empty 状態  
**FUART\_STORAGE\_NORMAL**: FIFO または保持レジスタが正常状態  
**FUART\_STORAGE\_INVALID**: FIFO または保持レジスタが無効状態  
**FUART\_STORAGE\_FULL**: FIFO または保持レジスタが full 状態

## 7.2.3.9 FUART\_Init

Full UART チャンネルの設定

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
FUART\_Init(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FUART\_InitTypeDef \* **InitStruct**)

引数:  
**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**InitStruct**: ボーレート、ワード長、ストップビット、パリティ、転送モード、フロー制御の設定値を格納します。(詳細は“データ構造説明”を参照)

機能:  
ボーレート、ワード長、ストップビット、パリティ、転送モード、フロー制御の設定を行います。  
Full UART 回路を有効にする前に本 API を実行してください。

戻り値:

なし

## 7.2.3.10 FUART\_EnableFIFO

送受信 FIFO の有効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_EnableFIFO(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

送受信 FIFO を許可します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.11 FUART\_DisableFIFO

送受信 FIFO の無効化

関数のプロトタイプ宣言:

FUART\_DisableFIFO(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

送受信 FIFO を禁止し、モードをキャラクタモードに変更します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.12 FUART\_SetSendBreak

ブレーク付き送信の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_SetSendBreak(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**NewState**: ブレーク付き送信の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: ブレーク送信する。
- **DISABLE**: ブレーク送信しない。



**機能:**

ブレーク付き送信の許可/禁止を選択します。ブレーク状態を生成するには、最低 1 つ以上のフレームを送信中に、本 API にてイネーブルにしてください。ブレーク状態が生成された場合でも、送信 FIFO には影響を与えません。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.13 FUART\_SetINTFIFOLevel

送受信割り込み FIFO レベルの選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
FUART_SetINTFIFOLevel(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                      uint32_t RxLevel,  
                      uint32_t TxLevel)
```

**引数:**

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**RxLevel**: 受信割り込み FIFO レベルを選択します。(受信 FIFO は 32 段です)

- **FUART\_RX\_FIFO\_LEVEL\_4**: 受信 FIFO が 4 バイト以上
- **FUART\_RX\_FIFO\_LEVEL\_8**: 受信 FIFO が 8 バイト以上
- **FUART\_RX\_FIFO\_LEVEL\_16**: 受信 FIFO が 16 バイト以上
- **FUART\_RX\_FIFO\_LEVEL\_24**: 受信 FIFO が 24 バイト以上
- **FUART\_RX\_FIFO\_LEVEL\_28**: 受信 FIFO が 28 バイト以上

**TxLevel**: 送信割り込み FIFO レベルを選択します。(送信 FIFO は 32 段です)

- **FUART\_TX\_FIFO\_LEVEL\_4**: 送信 FIFO が 4 バイト以上
- **FUART\_TX\_FIFO\_LEVEL\_8**: 送信 FIFO が 8 バイト以上
- **FUART\_TX\_FIFO\_LEVEL\_16**: 送信 FIFO が 16 バイト以上
- **FUART\_TX\_FIFO\_LEVEL\_24**: 送信 FIFO が 24 バイト以上
- **FUART\_TX\_FIFO\_LEVEL\_28**: 送信 FIFO が 28 バイト以上

**機能:**

UARTTXINTR および UARTRXINTR が発生する FIFO レベルを定義します。このレベルを超えると割り込みが発生します。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.14 FUART\_SetINTMask

割り込み発生要因の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
FUART_SetINTMask(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                 uint32_t IntMaskSrc)
```

**引数:**

**FUARTx:** Full UART チャンネルを指定します。

**IntMaskSrc:** 割り込み発生要因を選択します。

- **FUART\_NONE\_INT\_MASK:** すべての割り込みを禁止します。
- **FUART\_RX\_FIFO\_INT\_MASK:** 受信割り込みを許可します。
- **FUART\_TX\_FIFO\_INT\_MASK:** 送信割り込みを許可します。
- **FUART\_RX\_TIMEOUT\_INT\_MASK:** 受信タイムアウト割り込みを許可します。
- **FUART\_FRAMING\_ERR\_INT\_MASK:** フレーミングエラー割り込みを許可します。
- **FUART\_PARITY\_ERR\_INT\_MASK:** パリティエラー割り込みを許可します。
- **FUART\_BREAK\_ERR\_INT\_MASK:** ブレークエラー割り込みを許可します。
- **FUART\_OVERRUN\_ERR\_INT\_MASK:** オーバーランエラー割り込みを許可します。
- **FUART\_ALL\_INT\_MASK:** すべての割り込みを許可します。

**機能:**

要因毎に割り込み発生 of 許可/禁止を設定します。選択されていない要因の割り込みは禁止されます。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.15 FUART\_GetINTMask

割り込み発生要因の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FUART\_INTStatus

FUART\_GetINTMask(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

**引数:**

**FUARTx:** Full UART チャンネルを指定します。

**機能:**

割り込み発生 of 許可/禁止状態を要因毎に取得します。

**戻り値:**

**FUART\_INTStatus:** 割り込み発生要因が格納された変数です。

(詳細は“データ構成説明”を参照)

## 7.2.3.16 FUART\_GetRawINTStatus

割り込み許可/禁止設定前の割り込みステータスの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FUART\_INTStatus

FUART\_GetRawINTStatus(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

**引数:**

**FUARTx:** Full UART チャンネルを指定します。

**機能:**

割り込み許可/禁止設定前の割り込みステータスを取得します。

**戻り値:**

**FUART\_INTStatus:** 割り込みステータスが格納された変数です。(詳細は“データ構成説明”を参照)

## 7.2.3.17 FUART\_GetMaskedINTStatus

割り込み許可/禁止設定後の割り込みステータスの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FUART\_INTStatus

FUART\_GetMaskedINTStatus(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**)

**引数:**

**FUARTx:** Full UART チャンネルを指定します。

**機能:**

割り込み許可/禁止設定後の割り込みステータスを取得します。

**戻り値:**

**FUART\_INTStatus:** 割り込みステータスが格納された変数です。(詳細は“データ構成説明”を参照)

## 7.2.3.18 FUART\_ClearINT

割り込み要因のクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

FUART\_ClearINT(TSB\_FUART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
FUART\_INTStatus **INTStatus**)

**引数:**

**FUARTx:** Full UART チャンネルを指定します。

**INTStatus:** クリア対象の割り込み要因を格納してください。(詳細は“データ構成説明”を参照)

**機能:**

割り込み要因をクリアします。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.19 FUART\_EnableLoopBack

ループバックテストモードの許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

FUART\_EnableLoopBack(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

ループバックテストモードを許可します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.20 FUART\_DisableLoopBack

ループバックテストモードの禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_DisableLoopBack(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

ループバックテストモードを禁止します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.21 FUART\_EnableDuty

50%デューティモードの有効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_EnableDuty (TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

50%デューティモードを有効にします。

戻り値:

なし

## 7.2.3.22 FUART\_DisableDuty

50%デューティモードの無効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_DisableDuty (TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

50%デューティモードを無効にします。

戻り値:

なし

## 7.2.3.23 FUART\_SetPeriodDetection

"0"検出期間の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_SetPeriodDetection(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
uint32\_t **PeriodDetection**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**PeriodDetection**: 以下のいずれかの"0"検出期間を選択します。

- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_1**: 1/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_2**: 2/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_3**: 3/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_4**: 4/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_5**: 5/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_6**: 6/16 幅以上で"0"検出
- **FUART\_PERIOD\_DETEC\_7**: 7/16 幅以上で"0"検出

機能:

"0"検出期間を選択します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.24 FUART\_SetTxTerminalMode

送信端子モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART\_SetTxTerminalMode(TSB\_UART\_TypeDef \* **FUARTx**,  
uint32\_t **TxTerminalMode**)

引数:

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**TxTerminalMode**: 以下のいずれかの送信端子モードを選択します。

- **FUART\_1\_TERMINAL**: 1 端子モード
- **FUART\_2\_TERMINAL**: 2 端子モード

**機能:**

送信端子モードを選択します。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.25 FUART\_SetStartBitTerminal

スタートビット開始端子の選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
FUART_SetStartBitTerminal(TSB_UART_TypeDef * FUARTx,  
                          uint32_t StartBitTerminal)
```

**引数:**

**FUARTx**: Full UART チャンネルを指定します。

**StartBitTerminal**: 以下のいずれかのスタートビット開始端子を選択します。

- **FUART\_TXD50A**: UTxTXD50A
- **FUART\_TXD50B**: UTxTXD50B

**機能:**

スタートビット開始端子をを選択します。

**戻り値:**

なし

## 7.2.4 データ構造

### 7.2.4.1 FUART\_InitTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**BaudRate**: ボーレートを設定します。0(bps)は設定できません。また、6250000 (bps)より小さい値を設定してください。

uint32\_t

**DataBits**: フレームで送受信されたデータビットの数を設定します。

- **UART\_DATA\_BITS\_5**: 5bit
- **UART\_DATA\_BITS\_6**: 6bit
- **UART\_DATA\_BITS\_7**: 7bit
- **UART\_DATA\_BITS\_8**: 8bit

uint32\_t

**StopBits**: 送信ストップビット長を設定します。

- **UART\_STOP\_BITS\_1**: 1bit
- **UART\_STOP\_BITS\_2**: 2bit

uint32\_t

**Parity**: パリティ状態を設定します。

- **UART\_NO\_PARITY**: パリティの送信およびチェックなし

- **UART\_0\_PARITY:** パリティビットとして"0"を送信または受信
- **UART\_1\_PARITY:** パリティビットとして"1"を送信または受信
- **UART\_EVEN\_PARITY:** パリティビットとして偶数パリティを送信または受信
- **UART\_ODD\_PARITY:** パリティビットとして奇数パリティを送信または受信

uint32\_t

**Mode:** 受信、送信あるいは両方の許可/禁止を設定します。

- **UART\_ENABLE\_TX:** 送信許可
- **UART\_ENABLE\_RX:** 受信許可
- **UART\_ENABLE\_TX | UART\_ENABLE\_RX:** 送受信許可

uint32\_t

**FlowCtrl:** ハードウェアフロー制御を設定します。

- **UART\_NONE\_FLOW\_CTRL:** フロー制御なし

## 7.2.4.2 FUART\_INTStatus

メンバ:

uint32\_t

**All:** Full UART 割り込みステータス、または割り込み制御

**Bit**

uint32\_t

**Reserved1:** 1 未使用

uint32\_t

**Reserved2:** 1 未使用

uint32\_t

**Reserved3:** 1 未使用

uint32\_t

**Reserved4:** 1 未使用

uint32\_t

**RxFIFO:** 1 受信 FIFO 割り込み

uint32\_t

**TxFIFO:** 1 送信 FIFO 割り込み

uint32\_t

**RxTimeout:** 1 受信タイムアウト割り込み

uint32\_t

**FramingErr:** 1 フレーミングエラー割り込み

uint32\_t

**ParityErr:** 1 パリティエラー割り込み

uint32\_t

**BreakErr:** 1 ブレークエラー割り込み

uint32\_t

**OverrunErr:** 1 オーバーランエラー割り込み

uint32\_t

**Reserved:** 21未使用

## 8. GPIO

### 8.1 概要

本製品の汎用 I/O ポートは、入出力はビット単位で指定でき、入出力ポート機能の他に、内蔵する周辺機能に対する入出力端子としても使用されます。

GPIO ドライバ API は各ポートの設定機能を持ち、入出力、プルアップ、プルダウン、オープンドレイン、CMOS などを設定します。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm38x\_gpio.c  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm38x\_gpio.h

### 8.2 API 関数

#### 8.2.1 関数一覧

- ◆ uint8\_t GPIO\_ReadData(GPIO\_Port **GPIO\_x**);
- ◆ uint8\_t GPIO\_ReadDataBit(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_WriteData(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Data**);
- ◆ void GPIO\_WriteDataBit(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**, uint8\_t **BitValue**);
- ◆ void GPIO\_Init(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
GPIO\_InitTypeDef \***GPIO\_InitStruct**);
- ◆ void GPIO\_SetOutput(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_SetInput(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_SetOutputEnableReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetInputEnableReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetPullUp(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetPullDown(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetOpenDrain(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_EnableFuncReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **FuncReg\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_DisableFuncReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **FuncReg\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);

#### 8.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。

- 1) 入出力ポートへの書き込み/読み出し:  
GPIO\_ReadData(), GPIO\_ReadDataBit(), GPIO\_WriteData(), GPIO\_WriteDataBit()
- 2) 入出力ポートの初期化と設定:  
GPIO\_SetOutput(), GPIO\_SetInput(), GPIO\_SetOutputEnableReg(),  
GPIO\_SetInputEnableReg(), GPIO\_SetPullUp(), GPIO\_SetPullDown(),  
GPIO\_SetOpenDrain(), GPIO\_Init()
- 3) その他:  
GPIO\_EnableFuncReg(), GPIO\_DisableFuncReg()



## 8.2.3 関数仕様

### 8.2.3.1 GPIO\_ReadData

DATA データレジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadData(GPIO_Port GPIO_x)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

機能:

DATA レジスタを読み込みます。

戻り値:

DATA レジスタの値です。

### 8.2.3.2 GPIO\_ReadDataBit

ビット単位での DATA レジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
uint8_t Bit_x)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L

- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7

**機能:**

ビット単位で DATA データレジスタを読み込みます。

**戻り値:**

- **GPIO\_BIT\_VALUE\_0:** 0
- **GPIO\_BIT\_VALUE\_1:** 1

### 8.2.3.3 GPIO\_WriteData

DATA レジスタへの書き込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

GPIO\_WriteData(GPIO\_Port **GPIO\_x**,  
uint8\_t **Data**)

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL:** GPIO port L
- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP:** GPIO port P

**Data:** DATA レジスタに書き込む値を設定します。

**機能:**

DATA レジスタへ指定された値を書き込みます。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.4 GPIO\_WriteDataBit

ビット単位での DATA レジスタの書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_WriteDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  uint8_t BitValue)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7

**BitValue**: GPIO 端子値

- **GPIO\_BIT\_VALUE\_0**: 0
- **GPIO\_BIT\_VALUE\_1**: 1

機能:

ビット単位で DATA データレジスタを書き込みます。

戻り値:

なし

## 8.2.3.5 GPIO\_Init

GPIO ポートの初期設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_Init(GPIO_Port GPIO_x,  
          uint8_t Bit_x,
```

GPIO\_InitTypeDef \* **GPIO\_InitStruct**)

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

**GPIO\_InitStruct**: GPIO 基本設定の構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

GPIO ポートを IO モード、プルアップ、プルダウン、オープンドレインポート、CMOS ポートなどの設定をおこないます。本 API は **GPIO\_SetOutput()**, **GPIO\_SetInput()**, **GPIO\_SetPullUP()**, **GPIO\_SetOpenDrain()**を実行します。

戻り値:

なし

## 8.2.3.6 GPIO\_SetOutput

出力ポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetOutput(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C

- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

**機能:**

出力ポートに設定します。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.7 GPIO\_SetInput

入力ポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetInput(GPIO_Port GPIO_x,  
               uint8_t Bit_x)
```

**引数:**

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**機能:**

入力ポートに設定します。

**補足:**

TMPM381:

ポート H/ポート I/ポート J をアナログ入力として使用する場合、PHIE/PIIE/PJIE と PHPUP/PIPUP/PJPUP は無効にします。

TMPM383:

ポート H/ポート I をアナログ入力として使用する場合、PHIE/PIIE と PHPUP/PIPUP は無効にします。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.8 GPIO\_SetOutputEnableReg

出力ポートの許可/禁止設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetOutputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL:** GPIO port L
- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP:** GPIO port P

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE :** 出力許可
- **DISABLE :** 出力禁止

**機能:**

GPIO 端子出力の許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、出力許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、出力禁止。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.9 GPIO\_SetInputEnableReg

入力ポートの許可/禁止設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetInputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL:** GPIO port L
- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP:** GPIO port P

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2

- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

**NewState**:

- **ENABLE**: 入力許可
- **DISABLE**: 入力禁止

**機能**:

GPIO 端子入力の許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、入力許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、入力禁止。

**戻り値**:

なし

## 8.2.3.10 GPIO\_SetPullUp

プルアップポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言**:

```
void  
GPIO_SetPullUp(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x,  
                FunctionalState NewState)
```

**引数**:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP**: GPIO port P

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6



- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** プルアップ許可
- **DISABLE:** プルアップ禁止

**機能:**

GPIO 端子プルアップの許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、プルアップ許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、プルアップ禁止。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.11 GPIO\_SetPullDown

プルダウンポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetPullDown(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL:** GPIO port L
- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP:** GPIO port P

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** プルダウン許可
- **DISABLE:** プルダウン禁止

**機能:**

GPIO 端子プルダウンの許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、プルダウン許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、プルダウン禁止。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.12 GPIO\_SetOpenDrain

CMOS/オープンドレインポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetOpenDrain(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL:** GPIO port L
- **GPIO\_PM:** GPIO port M
- **GPIO\_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO\_PP:** GPIO port P

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** オープンドレイン許可
- **DISABLE:** CMOS 許可

**機能:**

GPIO 端子 CMOS/オープンドレインの許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、オープンドレイン許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、CMOS 許可。

戻り値:

なし

## 8.2.3.13 GPIO\_EnableFuncReg

機能ポートの有効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

```
GPIO_EnableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                    uint8_t FuncReg_x,  
                    uint8_t Bit_x)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

**FuncReg\_x**: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO\_FUNC\_REG\_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO\_FUNC\_REG\_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO\_FUNC\_REG\_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO\_FUNC\_REG\_4**: GPIO 機能レジスタ 4
- **GPIO\_FUNC\_REG\_5**: GPIO 機能レジスタ 5

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

機能:

GPIO 端子の機能を有効に設定します。

戻り値:  
なし

## 8.2.3.14 GPIO\_DisableFuncReg

機能ポートの無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_DisableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                     uint8_t FuncReg_x,  
                     uint8_t Bit_x)
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO\_PL**: GPIO port L
- **GPIO\_PM**: GPIO port M
- **GPIO\_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

**FuncReg\_x**: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO\_FUNC\_REG\_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO\_FUNC\_REG\_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO\_FUNC\_REG\_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO\_FUNC\_REG\_4**: GPIO 機能レジスタ 4
- **GPIO\_FUNC\_REG\_5**: GPIO 機能レジスタ 5

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

機能:

GPIO 端子の機能を無効に設定します。

戻り値:  
なし

## 8.2.4 データ構造

### 8.2.4.1 GPIO\_InitTypeDef

データフィールド:

uint8\_t

**IOMode** ポートの入出力設定

- **GPIO\_INPUT**: 入力ポートに設定
- **GPIO\_OUTPUT**: 出力ポートに設定
- **GPIO\_IO\_MODE\_NONE**: 入出力モードを変更しない

uint8\_t

**PullUp** プルアップポートの許可/禁止設定

- **GPIO\_PULLUP\_ENABLE**: プルアップ許可
- **GPIO\_PULLUP\_DISABLE**: プルアップ禁止
- **GPIO\_PULLUP\_NONE**: プルアップ機能が無い、または設定変更しない

uint8\_t

**OpenDrain** オープンドレインポート/CMOSポートの設定

- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_ENABLE**: オープンドレインポートに設定
- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_DISABLE**: CMOSポートに設定
- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_NONE**: オープンドレイン機能がない、または設定変更しない

uint8\_t

**PullDown** プルダウンポートの許可/禁止設定

- **GPIO\_PULLDOWN\_ENABLE**: プルダウン許可
- **GPIO\_PULLDOWN\_DISABLE**: プルダウン禁止
- **GPIO\_PULLDOWN\_NONE**: プルダウン機能がない、または設定変更しない

### 8.2.4.2 GPIO\_RegTypeDef

メンバ:

uint8\_t

**PinDATA** DATAレジスタのマスク値

uint8\_t

**PinCR** CRレジスタのマスク値

- **0**: 出力ディゼーブル
- **1**: 出力イネーブル

uint8\_t

**PinFR[FRMAX]** FRレジスタのマスク値

uint8\_t

**PinOD** ODレジスタのマスク値

- **0**: CMOS
- **1**: オープンドレイン

uint8\_t

**PinPUP** PUPレジスタのマスク値

- 0: Pull-up ディゼーブル
- 1: Pull-up イネーブル

uint8\_t

**PinPDN** PDN レジスタのマスク値

- 0: Pull-down ディゼーブル
- 1: Pull-down イネーブル

uint8\_t

**PinPIE** IE レジスタのマスク値

- 0: 入力ディゼーブル
- 1: 入力イネーブル

### 8.2.4.3 TSB\_Port\_TypeDef

メンバ:

\_\_IO uint32\_t

**DATA** DATA レジスタのリードデータまたはライトデータです。

\_\_IO uint32\_t

**CR** CR レジスタのリードデータまたはライトデータです。

\_\_IO uint32\_t

**FR[FRMAX]** “FR[FRMAX]” レジスタのリードデータまたはライトデータです。

uint32\_t

**RESERVED0[RESER]** 未使用

\_\_IO uint32\_t

**OD** OD レジスタのリードデータまたはライトデータです。

\_\_IO uint32\_t

**PUP** PUP レジスタのリードデータまたはライトデータです。

\_\_IO uint32\_t

**PDN** PDN レジスタのリードデータまたはライトデータです。

uint32\_t

**RESERVED1[RESER]** 未使用

\_\_IO uint32\_t

**IE** IE レジスタのリードデータまたはライトデータです。

## 9. OFD

### 9.1 概要

本デバイスは周波数検知回路(OFD)を内蔵しています。この回路は、クロックの異常状態や停止状態を検出するとリセットを発生する回路です。

OFDドライバ API は、OFD 動作の許可/禁止、検知周波数設定、OFD 回路の状態の取得などを行う関数セットです。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_ofd.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_ofd.h

### 9.2 API 関数

#### 9.2.1 関数一覧

- ◆ void OFD\_SetRegWriteMode(FunctionalState NewState);
- ◆ void OFD\_Enable(void);
- ◆ void OFD\_Disable(void);
- ◆ void OFD\_SetDetectionFrequency(uint8\_t HigherDetectionCount, uint8\_t LowerDetectionCount);
- ◆ void OFD\_Reset(FunctionalState NewState);
- ◆ OFD\_Status OFD\_GetStatus(void);

#### 9.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。:

- 1) OFD 回路の初期化と設定:  
OFD\_SetRegWriteMode(), OFD\_SetDetectionFrequency(), OFD\_Enable(), OFD\_Disable()
- 2) OFD 動作状態、周波数異常検知フラグの取得:  
OFD\_GetStatus()
- 3) OFD リセットの許可/禁止:  
OFD\_Reset ()

#### 9.2.3 関数仕様

##### 9.2.3.1 OFD\_SetRegWriteMode

レジスタ書き込み制御

関数のプロトタイプ宣言:

void  
OFD\_SetRegWriteMode(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState** : 以下から、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタへの書き込み許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**機能:**

本関数は、**NewState** が **ENABLE** の時に、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタの書き込みを許可し、**DISABLE** の時に書き込みを禁止します。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.2 OFD\_Enable

OFD 動作の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_Enable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

OFD 動作を許可します。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.3 OFD\_Disable

OFD 動作の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_Disable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

OFD 動作を禁止します。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.4 OFD\_SetDetectionFrequency

検知周波数の上限下限値設定



**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_SetDetectionFrequency(uint8_t HigherDetectionCount,  
                           uint8_t LowerDetectionCount)
```

**引数:**

**HigherDetectionCount**: 検出周波数上限値

**LowerDetectionCount**: 検出周波数下限値

**機能:**

本関数は、検出周波数上限値、検出周波数下限値を設定します。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.5 OFD\_Reset

OFD リセットの許可/禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_Reset(FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**NewState**: 以下から、OFD リセットの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**機能:**

OFD リセットの許可/禁止を設定します。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.6 OFD\_GetStatus

OFD 動作状態、周波数異常検知フラグの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
OFD_Status  
OFD_GetStatus(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

OFD 動作状態、周波数異常検知フラグを取得します。

**戻り値:**

**OFD\_Status**: OFD ステータスの構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

## 9.2.4 データ構造

### 9.2.4.1 OFD\_Status

メンバ:

uint32\_t

*All*: データ

ビットフィールド:

uint32\_t

*FrequencyError*: 1 周波数異常検知フラグ

uint32\_t

*OFDBusy*: 1 OFD 動作状態

## 10. RMC

### 10.1 概要

本デバイスは搬送波が取り除かれたリモコン信号の受信を行います。

リモコン受信:

- サンプルングクロックは低周波クロック(32.768KHz)とタイマ出力を選択可能。
- ノイズキャンセル時間を調整可能。
- リーダ検出。
- 最大 72bit まで一括受信。

RMCドライバ API ではチャンネル毎の機能セットが提供されています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_rmc.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_rmc.h

### 10.2 API 関数

#### 10.2.1 関数一覧

- ◆ void RMC\_Enable(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)
- ◆ void RMC\_Disable(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)
- ◆ void RMC\_Init(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, RMC\_InitTypeDef \* **RMC\_InitStruct**)
- ◆ void RMC\_SetRxCtrl(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ RMC\_RxDataTypeDef RMC\_GetRxData(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)
- ◆ void RMC\_SetLeaderDetection(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
RMC\_LeaderParameterTypeDef **LeaderPara**)
- ◆ void RMC\_SetFallingEdgeINT(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void RMC\_SetSignalRxMethod(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
RMC\_RxMethod **Method**)
- ◆ void RMC\_SetRxTrg(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, uint8\_t **LowWidth**,  
uint8\_t **MaxDataBitCycle**)
- ◆ void RMC\_SetThreshold(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, uint8\_t **LargerThreshold**,  
uint8\_t **SmallerThreshold**)
- ◆ void RMC\_SetInputSignalReversed(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void RMC\_SetNoiseCancellation(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
uint8\_t **NoiseCancellationTime**)
- ◆ RMC\_INTFactor RMC\_GetINTFactor(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)
- ◆ RMC\_LeaderDetection RMC\_GetLeader(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)
- ◆ void RMC\_SetRxEndBitNum(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**,  
RMC\_RxEndBitsReg **Reg\_x**, uint8\_t **BitNum**)
- ◆ void RMC\_SetSrcClk(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, RMC\_SrcClk **Clk**)

#### 10.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。:

- 1) RMC の初期化と設定:  
RMC\_Enable(), RMC\_Disable(), RMC\_Init(), RMC\_SetRxCtrl()
- 2) RMC 基本状態の設定:  
RMC\_SetLeaderDetection(), SetFallingEdgeINT(), RMC\_SetSignalRxMethod(),  
RMC\_SetRxTrg(), RMC\_SetThreshold(), RMC\_SetInputSignalReversed(),  
RMC\_SetNoiseCancellation(), RMC\_SetRxEndBitNum(), RMC\_SetSrcClk()
- 3) 受信状態の取得、受信データの取得:  
RMC\_GetINTFactor(), RMC\_GetLeader(), RMC\_GetRxData()

## 10.2.3 関数仕様

補足: 引数“TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**”は **TSB\_RMC** を指定してください。

### 10.2.3.1 RMC\_Enable

RMC 機能の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_Enable(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCCEN<RMCCEN>ビットを 1 に設定し、RMC 機能を許可します。

戻り値:

なし

### 10.2.3.2 RMC\_Disable

RMC 機能の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_Disable(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCCEN<RMCCEN>ビットを 0 クリアし、RMC 機能を禁止します。

戻り値:

なし

### 10.2.3.3 RMC\_Init

RMC レジスタの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
```

RMC\_Init(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, RMC\_InitTypeDef \* **RMC\_InitStruct**)

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**RMC\_InitStruct**: RMC 動作の初期値です。

(詳細は“データ構造説明”を参照してください。)

機能:

RMC チャンネルの初期化を行います。

戻り値:

なし

## 10.2.3.4 RMC\_SetRxCtrl

受信動作の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RMC\_SetRxCtrl(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**, FunctionalState **NewState**)

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**NewState**: RMC 機能の受信動作を指定します。

- **ENABLE**: 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

機能:

RMC 判定機能動作の許可/禁止を選択します。

戻り値:

なし

## 10.2.3.5 RMC\_GetRxData

受信データの取得

関数のプロトタイプ宣言:

RMC\_RxDataTypeDef

RMC\_GetRxData(TSB\_RMC\_TypeDef \* **RMCx**)

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCRBUF1~RMCRBUF 3 と RMCRSTAT<RMCRNUM>から受信データを取得します。

戻り値:

**RMC\_RxDataDef**: RMC 受信バッファの構造体。(詳細は“データ構造説明”を参照)

## 10.2.3.6 RMC\_SetLeaderDetection

リーダー検出の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetLeaderDetection(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                       RMC_LeaderParameterTypeDef LeaderPara)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**LeaderPara**: リーダー検出を設定します。(詳細は“データ構造説明”を参照)

機能:

RMC リーダー検出を設定します。

この関数は RMCRCR1、RMCRCR2<RMCLIEN>、RMCRCR2<RMCLD>の設定を行います。

詳細は MCU データシートを参照してください。

戻り値:

なし

## 10.2.3.7 RMC\_SetFallingEdgeINT

リモコン入力立下りエッジ割り込み発生の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetFallingEdgeINT(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                      FunctionalState NewState)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**NewState**: リモコン入力立下りエッジ割り込み発生 of 許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

**NewState** が **ENABLE** の場合、リモコン入力立ち下がリエッジ割り込みが有効になります。**NewState** が **DISABLE** の場合、無効になります。

戻り値:

なし

## 10.2.3.8 RMC\_SetSignalRxMethod

位相方式のリモコン受信モード選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetSignalRxMethod(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,
```

RMC\_RxMethod **Method**)

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**Method**: 位相方式のリモコン受信モードを選択します。

➤ **RMC\_RX\_IN\_CYCLE\_METHOD**: 周期方式で受信。

➤ **RMC\_RX\_IN\_PHASE\_METHOD**: 位相方式で受信。

機能:

位相方式のリモコン受信モードを選択します。

戻り値:

なし

## 10.2.3.9 RMC\_SetRxTrg

受信終了/割り込み設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetRxTrg(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
              uint8_t LowWidth,  
              uint8_t MaxDataBitCycle)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**LowWidth**: Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生タイミングを設定します。

**MaxDataBitCycle**: データビットの周期 MAX で受信終了/割り込みを設定します。

機能:

RMC チャンネルのトリガ設定を行います。

**LowWidth** を RMCRCR2<RMCLL7:0> に設定した場合は、Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生タイミングを設定します。Low 幅検出時に受信が完了し、割り込みが発生します。<RMCLL7:0> = 11111111b の時は検出しません。

計算式:  $RMCLLx1/fs[s]$

**MaxDataBitCycle** を RMCRCR2<RMCDMAX7:0> に設定した場合は、データビットの周期MAX 検出のしきい値を設定します。データビット周期の値がしきい値以上であれば検出となります。<RMCDMAX7:0> = 11111111b の時は検出しません。

計算式:  $RMCDMAX \times 1/fs[s]$

戻り値:

なし

## 10.2.3.10 RMC\_SetThreshold

位相方式のしきい値の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetThreshold(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                 uint8_t LargerThreshold,  
                 uint8_t SmallerThreshold)
```

**引数:**

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**LargerThreshold**: 位相方式のリモコン信号の3値判定の1.5Tと2Tのしきい値の設定をします。データビットの測定結果がしきい値以上でデータを“10”、しきい値未満でデータ“01”と判別します。

しきい値計算式:  $RMCDATHx1/fs[s]$

LargerThreshold には 0x80 より小さい値を設定してください。

**SmallerThreshold**: 2種類のしきい値の設定: データビットの0/1判定のしきい値および、位相方式のリモコン信号の3値判定の1Tと1.5Tのしきい値の設定をします。データビットの0/1判定の場合、測定結果がしきい値以上でデータ“1”、しきい値未満でデータ“0”と判別します。

しきい値の計算式:  $RMCDATLx1/fs[s]$

位相方式のリモコン信号の3値判定の場合、データビットの測定結果がしきい値以上でデータを“01”、しきい値未満でデータ“00”と判別します。

データビットの0/1判定:  $RMCDATLx1/fs[s]$

RMCR3<RMCDATH0-6> <RMCDATL0-6> ビットで設定します。

しきい値下位は 0x80 以下となります。

**機能:**

位相方式のリモコン信号のしきい値を設定します。本設定が有効になるのは、位相方式のリモコン受信が次のように許可されているときのみです。<RMCPHM> = “1”

**戻り値:**

なし

## 10.2.3.11 RMC\_SetInputSignalReversed

リモコン入力信号の極性設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RMC_SetInputSignalReversed(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                           FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**NewState**: リモコン入力信号の極性を選択します。

- **ENABLE**: 負極
- **DISABLE**: 正極

**機能:**

**NewState** が **ENABLE** の場合、RMC チャンネルのリモコン入力信号の極性反転は有効(負極)となり、**DISABLE** の時は無効(正極)となります。

**戻り値:**

なし



## 10.2.3.12 RMC\_SetNoiseCancellation

ノイズ除去時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetNoiseCancellation(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                          uint8_t NoiseCancellationTime)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**NoiseCancellationTime**: ノイズ除去時間を設定します。0x10 よりも小さい値を設定してください。

機能:

ノイズ除去時間を設定します。

<RMCNC3:0> = 0000b の場合は、ノイズを除去しません。

ノイズキャンセル時間の計算式:  $RMCNC \times 1/fs[s]$ .

戻り値:

なし

## 10.2.3.13 RMC\_GetINTFactor

割り込み要因の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
RMC_INTFactor  
RMC_GetINTFactor(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

機能:

割り込み要因を取得します。

戻り値:

**RMC\_INTFactor**: 割り込み要因の構造体です。(詳細は“データ構造説明”を参照)

## 10.2.3.14 RMC\_GetLeader

リーダー検出の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
RMC_LeaderDetection  
RMC_GetLeader(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

機能:

リーダー検出を取得します。

戻り値:

RMC\_LeaderDetection: リーダ検出結果

- RMC\_LEADER\_DETECTED: リーダ検出あり
- RMC\_NO\_LEADER: リーダ検出なし

## 10.2.3.15 RMC\_SetRxEndBitNum

受信終了ビット数の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetRxEndBitNum(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                   RMC_RxEndBitsReg Reg_x,  
                   uint8_t BitNum)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**Reg\_x**: 受信終了ビット数レジスタを選択します。

- RMC\_RX\_END\_BITS\_REG\_1: RMCxEND1 レジスタ。
- RMC\_RX\_END\_BITS\_REG\_2: RMCxEND2 レジスタ。
- RMC\_RX\_END\_BITS\_REG\_3: RMCxEND3 レジスタ。

**BitNum**: 受信するデータのビット数を設定します。

機能:

受信終了ビット数を設定します。

戻り値:

なし

## 10.2.3.16 RMC\_SetSrcClk

RMC サンプリングクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetSrcClk(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
              RMC_SrcClk Clk)
```

引数:

**RMCx**: RMC チャンネルを指定します。

**Clk**: RMC サンプリングクロックを選択します。

- RMC\_CLK\_LOW\_FREQUENCY: 低速クロック(32KHz)
- RMC\_CLK\_TB1OUT: タイマ出力(TB1OUT).

機能:

RMC サンプリングクロックを選択します。

戻り値:

なし

## 10.2.4 データ構造

### 10.2.4.1 RMC\_RxDataDef

メンバ:

uint8

**RxDataBits:** 受信データビット数

uint32\_t

**RxBuf1:** 受信バッファ 1 (<MCRBUF31:0>から 4 バイトデータを読み出します)

uint32\_t

**RxBuf2:** 受信バッファ 2 (<MCRBUF63:32>から 4 バイトデータを読み出します)

uint8\_t

**RxBuf3:** 受信バッファ 3 (<MCRBUF71:64>から 1 バイトデータを読み出します)

### 10.2.4.2 RMC\_LeaderParameterTypeDef

メンバ:

FunctionalState

**LeaderDetectionState:** リーダ検出のあり/なしを選択します。

- **ENABLE:** リーダ検出あり。
- **DISABLE:** リーダ検出なし。

uint8\_t

**MaxCycle:** リーダ検出の周期期間の上限。

uint8\_t

**MinCycle:** リーダ検出の周期期間の下限。

uint8\_t

**MaxLowWidth:** リーダ検出の LOW 期間の上限。

uint8\_t

**MinLowWidth:** リーダ検出の LOW 期間の下限。

FunctionalState

**LeaderINTState:** リーダ検出割り込み発生 of 許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 割り込み発生する。
- **DISABLE:** 割り込み発生しない。

### 10.2.4.3 RMC\_InitTypeDef

メンバ:

RMC\_LeaderParameterTypeDef

**LeaderPara:** リーダ検出設定

FunctionalState

**FallingEdgeINTState:** リモコン入力立ち下がリエッジ割り込みの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 割り込み発生する。
- **DISABLE:** 割り込み発生しない。

RMC\_RxMethod

**SignalRxMethod:** 位相方式のリモコン受信モードを設定します。

- RMC\_RX\_IN\_CYCLE\_METHOD: 周期方式で受信。
- RMC\_RX\_IN\_PHASE\_METHOD: 位相方式で受信。

FunctionalState

**InputSignalReversedState:** リモコン入力信号の極性選択を選択します。

- ENABLE: 負極。
- DISABLE: 正極。

uint8\_t

**NoiseCancellationTime:** ノイズ除去時間を設定します。0x10 よりも小さい値を設定してください。

uint8\_t

**LowWidth:** Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生のタイミングを設定します。

uint8\_t

**MaxDataBitCycle:** 受信終了/割り込み発生の周期の最大値を設定します。

uint8\_t

**LargerThreshold:** 位相方式のリモコン信号におけるデータビットの 3 値判定のしきい値の上位を設定します。0x80 より小さい値を設定してください。

uint8\_t

**SmallerThreshold:** 位相方式のリモコン信号におけるデータビットの 0/1 判別および 3 値判定のしきい値の下位を設定します。0x80 より小さい値を設定してください。

## 10.2.4.4 RMC\_INTFactor

メンバ:

uint32\_t

All: データ

ビットフィールド:

uint32\_t

**Reserved:** 12 未使用

uint32\_t

**InputFallingEdge:** 1 立ち下がリエッジ割り込み要因フラグ

uint32\_t

**MaxDataBitCycle:** 1 データビット周期 MAX 割り込み要因フラグ

uint32\_t

**LowWidthDetection:** 1 Low 幅検出割り込み要因フラグ

uint32\_t

**LeaderDetection:** 1 リーダ検出割り込み要因フラグ

## 11. RTC

### 11.1 概要

RTC の機能概略は以下です。

- 時計機能(時間, 分, 秒)
- カレンダー機能(日月, 週, うるう年)
- 24 時間計と 12 時間計 (am/ pm)のいずれかを選択可能
- +/- 30 秒補正機能 (ソフトウェアによる補正)
- アラーム機能 (アラーム出力)
- アラーム割り込み発生

本 RTC ドライバは、年、うるう年、月、日、曜日、時間、分、秒、時間モードなどを格納する RTC クロック、アラームの設定を行う関数セットです。

本ドライバは、アプリで使用する API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_rtc.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_rtc.h

### 11.2 API 関数

#### 11.2.1 関数一覧

- ◆ void RTC\_SetSec(uint8\_t **Sec**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetSec(void);
- ◆ void RTC\_SetMin(RTC\_FuncMode **NewMode**, uint8\_t **Min**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetMin(RTC\_FuncMode **NewMode**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetAMPM(RTC\_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC\_SetHour24(RTC\_FuncMode **NewMode**, uint8\_t **Hour**);
- ◆ void RTC\_SetHour12(RTC\_FuncMode **NewMode**, uint8\_t **Hour**, uint8\_t **AmPm**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetHour(RTC\_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC\_SetDay(RTC\_FuncMode **NewMode**, uint8\_t **Day**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetDay(RTC\_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC\_SetDate(RTC\_FuncMode **NewMode**, uint8\_t **Date**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetDate(RTC\_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC\_SetMonth(uint8\_t **Month**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetMonth(void);
- ◆ void RTC\_SetYear(uint8\_t **Year**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetYear(void);
- ◆ void RTC\_SetHourMode(uint8\_t **HourMode**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetHourMode(void);
- ◆ void RTC\_SetLeapYear(uint8\_t **Leap Year**);
- ◆ uint8\_t RTC\_GetLeapYear(void);
- ◆ void RTC\_SetTimeAdjustReq(void);
- ◆ RTC\_ReqState RTC\_GetTimeAdjustReq(void);
- ◆ void RTC\_EnableClock(void);
- ◆ void RTC\_DisableClock(void);
- ◆ void RTC\_EnableAlarm(void);
- ◆ void RTC\_DisableAlarm(void);
- ◆ void RTC\_SetRTCINT(FunctionalState **NewState**);
- ◆ void RTC\_SetAlarmOutput(uint8\_t **Output**);
- ◆ void RTC\_ResetClockSec(void);

- ◆ RTC\_ReqState RTC\_GetResetClockSecReq(void);
- ◆ void RTC\_ResetAlarm(void);
- ◆ void RTC\_SetDateValue(RTC\_DateTypeDef \* **DateStruct**);
- ◆ void RTC\_GetDateValue(RTC\_DateTypeDef \* **DateStruct**);
- ◆ void RTC\_SetTimeValue(RTC\_TimeTypeDef \* **TimeStruct**);
- ◆ void RTC\_GetTimeValue(RTC\_TimeTypeDef \* **TimeStruct**);
- ◆ void RTC\_SetClockValue(RTC\_DateTypeDef \* **DateStruct**,  
RTC\_TimeTypeDef \* **TimeStruct**);
- ◆ void RTC\_GetClockValue(RTC\_DateTypeDef \* **DateStruct**,  
RTC\_TimeTypeDef \* **TimeStruct**);
- ◆ void RTC\_SetAlarmValue(RTC\_AlarmTypeDef \* **AlarmStruct**);
- ◆ void RTC\_GetAlarmValue(RTC\_AlarmTypeDef \* **AlarmStruct**);

## 11.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。:

- 1) RTC 機能の年月日の設定:  
RTC\_SetDay(), RTC\_GetDay(), RTC\_SetDate(), RTC\_GetDate(), RTC\_SetMonth(),  
RTC\_GetMonth(), RTC\_SetYear(), RTC\_GetYear(), RTC\_SetLeapYear(),  
RTC\_GetLeapYear(), RTC\_SetDateValue(), RTC\_GetDateValue()
- 2) RTC 機能の時間の設定:  
RTC\_SetSec(), RTC\_GetSec(), RTC\_SetMin(), RTC\_GetMin(), RTC\_SetHour24(),  
RTC\_SetHour12(), RTC\_GetHour(), RTC\_SetHourMode(), RTC\_GetHourMode(),  
RTC\_GetAMPM(), RTC\_SetTimeValue(), RTC\_GetTimeValue()
- 3) RTC(clock)の設定:  
RTC\_EnableClock(), RTC\_DisableClock(), RTC\_SetTimeAdjustReq(),  
RTC\_GetTimeAdjustReq(), RTC\_ResetClockSec(), RTC\_GetResetClockSec(),  
RTC\_SetClockValue(), RTC\_GetClockValue()
- 4) RTC(alarm)の設定:  
RTC\_EnableAlarm(), RTC\_DisableAlarm(), RTC\_ResetAlarm(),  
RTC\_SetAlarmValue(), RTC\_GetAlarmValue()
- 5) その他:  
RTC\_SetAlarmOutput(), RTC\_SetRTCINT()

## 11.2.3 関数仕様

### 11.2.3.1 RTC\_SetSec

時計の秒桁設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetSec(uint8_t Sec);
```

**引数:**

**Sec:**最大 59 までの秒桁設定の値。

**機能:**

時計の秒桁値を設定します。RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の呼び出し後、RTC1Hz 割り込みを待つ必要があります。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.2 RTC\_GetSec

時計の秒桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetSec(void);
```

引数:

なし

機能:

時計の秒桁の値を返します。

戻り値:

時計の秒桁:  
0 ~ 59

## 11.2.3.3 RTC\_SetMin

時計/アラームの分桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetMin(RTC_FuncMode NewMode,  
            uint8_t Min);
```

引数:

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

**Min**: 最大 59 までの分桁を設定します。

機能:

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計の分桁を設定します。

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラームの分桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書き換えられます。この関数を呼び出した後に、1HZ 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

## 11.2.3.4 RTC\_GetMin

時計/アラームの分桁読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetMin(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

**NewMode:** RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE:** 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE:** アラーム機能

**機能:**

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計の分析の値を返します。

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラームの分析の値を返します。

**戻り値:**

分析:

0 ~ 59

### 11.2.3.5 RTC\_GetAMPM

12 時間モードの AM/PM 読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

uint8\_t

RTC\_GetAMPM(RTC\_FuncMode **NewMode**);

**引数:**

**NewMode:** RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE:** 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE:** アラーム機能

**機能:**

時計/アラームの AM/PM を返します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計の AM/PM を返します。

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラームの AM/PM を返します。

**戻り値:**

時計モード:

**RTC\_AM\_MODE:** AM

**RTC\_PM\_MODE:** PM

### 11.2.3.6 RTC\_SetHour24

24 時間モードの時計/アラーム時桁設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

RTC\_SetHour24(RTC\_FuncMode **NewMode**,  
uint8\_t **Hour**);

**引数:**

**NewMode:** RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE:** 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE:** アラーム機能

**Hour:** 最大 23 までの時桁を設定します。



**機能:**

24 時間モードの時計/アラームの時桁を設定します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の時桁を設定し、

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラームの時桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

\*12 時間モードから 24 時間モードに変更する場合、本関数 **RTC\_SetHour24()** によって HOU RR レジスタを再設定してください。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.7 RTC\_SetHour12

12 時間モードの時計/アラーム時桁設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetHour12(RTC_FuncMode NewMode,  
               uint8_t Hour,  
               uint8_t AmPm);
```

**引数:**

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

**Hour**: 最大 11 までの時桁を設定します。

**AmPm**: 以下から時間モードを選択します。

- **RTC\_AM\_MODE**: 12H モードの AM モード
- **RTC\_PM\_MODE**: 12H モードの PM モード

**機能:**

12 時間モードの時計/アラームの時桁を設定します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の時桁を設定し、

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラーム機能の時桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

\*24 時間モードから 12 時間モードに変更する場合、本関数 **RTC\_SetHour12()** によって HOU RR レジスタを再度設定してください。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.8 RTC\_GetHour

時計/アラームの時桁読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint8_t  
RTC_GetHour(RTC_FuncMode NewMode);
```

**引数:**

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

**機能:**

時計/アラームの時桁を返します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の時桁の値を返し、

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラーム機能の時桁の値を返します。

**戻り値:**

24 時間モードでの時桁:

0 ~ 23

12H 時間モードでの時桁:

0 ~ 11

## 11.2.3.9 RTC\_SetDay

時計/アラームの曜日設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetDay(RTC_FuncMode NewMode,  
            uint8_t Day);
```

**引数:**

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

曜日を選択します。

- **RTC\_SUN**: 日曜日
- **RTC\_MON**: 月曜日
- **RTC\_TUE**: 火曜日
- **RTC\_WED**: 水曜日
- **RTC\_THU**: 木曜日
- **RTC\_FRI**: 金曜日
- **RTC\_SAT**: 土曜日

**機能:**

時計/アラームの曜日を設定します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の曜日を設定します。

**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラーム機能の曜日を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.10 RTC\_GetDay

時計/アラームの曜日の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetDay(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

機能:

時計/アラームの曜日を返します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の曜日を返し、  
**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラーム機能の曜日を返します。

戻り値:

曜日の値:  
0 ~ 6

## 11.2.3.11 RTC\_SetDate

時計/アラームの日桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetDate(RTC_FuncMode NewMode,  
             uint8_t Date);
```

引数:

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

**Date**: 1 から 31 の日桁を設定します。

機能:

時計/アラームの日桁を設定します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合は、時計機能の日桁を設定し、  
**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合は、アラーム機能の日桁を設定します。  
RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数を呼び出した後に、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

## 11.2.3.12 RTC\_GetDate

時計/アラームの日桁読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint8_t  
RTC_GetDate(RTC_FuncMode NewMode);
```

**引数:**

**NewMode**: RTC モードを選択します。

- **RTC\_CLOCK\_MODE**: 時計機能
- **RTC\_ALARM\_MODE**: アラーム機能

**機能:**

時計/アラームの日桁を返します。

**NewMode** が **RTC\_CLOCK\_MODE** の場合、時計機能の日桁の値を返し、  
**NewMode** が **RTC\_ALARM\_MODE** の場合、アラーム機能の日桁の値を返します。

**戻り値:**

日桁:  
1 ~ 31

### 11.2.3.13 RTC\_SetMonth

時計の月桁設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetMonth(uint8_t Month);
```

**引数:**

**Month**: 1 から 12 の月桁を設定します。

**機能:**

時計の月桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

**戻り値:**

なし

### 11.2.3.14 RTC\_GetMonth

時計の月桁読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint8_t  
RTC_GetMonth(void);
```

**引数:**

なし

**機能:**

時計の月桁の値を返します。

戻り値:

月桁:

1 ~ 12

## 11.2.3.15 RTC\_SetYear

時計の年桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC\_SetYear(uint8\_t **Year**);

引数:

**Year**: 最大 99 までの年の値

機能:

時計の年桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

## 11.2.3.16 RTC\_GetYear

時計の年桁の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

uint8\_t

RTC\_GetYear(void);

引数:

なし

機能:

時計の年桁の値を返します。

戻り値:

年桁:

0 ~ 99

## 11.2.3.17 RTC\_SetHourMode

24 時間時計/12 時間時計の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC\_SetHourMode(uint8\_t **HourMode**);

引数:

**HourMode**: 時間モードを選択します。

- **RTC\_12\_HOUR\_MODE:** 12 時間時計
- **RTC\_24\_HOUR\_MODE:** 24 時間時計

**機能:**

24 時間時計/12 時間時計を選択します。

**HourMode** が **RTC\_24\_HOUR\_MODE** の時、12 時間時計を選択し、

**HourMode** が **RTC\_12\_HOUR\_MODE** の時、24 時間時計を選択します。

\* 本関数を実行する前に **RTC\_DisableClock()** を実行し、時計を停止してください。  
(詳細は “RTC\_DisableClock” を参照)

**戻り値:**

なし

### 11.2.3.18 RTC\_GetHourMode

時計モードの読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint8_t  
RTC_GetHourMode(void);
```

**引数:**

なし

**機能:**

時計モードを読み込みます。

**戻り値:**

時計モード

**RTC\_24\_HOUR\_MODE:** 24 時間時計

**RTC\_12\_HOUR\_MODE:** 12 時間時計

### 11.2.3.19 RTC\_SetLeapYear

うるう年の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetLeapYear(uint8_t LeapYear);
```

**引数:**

**LeapYear:** 以下からうるう年を選択します。

- **RTC\_LEAP\_YEAR\_0:** 現在の年(今年)がうるう年
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_1:** 現在がうるう年から 1 年目
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_2:** 現在がうるう年から 2 年目
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_3:** 現在がうるう年から 3 年目

**機能:**

うるう年を設定します。

**LeapYear** が **RTC\_LEAP\_YEAR\_0** の場合、現在の年(今年)がうるう年で、

*LeapYear* が `RTC_LEAP_YEAR_1` の場合、現在がうるう年から 1 年目で、  
*LeapYear* が `RTC_LEAP_YEAR_2` の場合、現在がうるう年から 2 年目で、  
*LeapYear* が `RTC_LEAP_YEAR_3` の場合、現在がうるう年から 3 年目になります。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.20 RTC\_GetLeapYear

うるう年の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:  
`uint8_t`  
`RTC_GetLeapYear(void);`

引数:  
なし

機能:  
うるう年の状態を返します。

戻り値:  
うるう年の状態を表す値。

## 11.2.3.21 RTC\_SetTimeAdjustReq

+/- 30 秒の補正

関数のプロトタイプ宣言:  
`void`  
`RTC_SetTimeAdjustReq(void);`

引数:  
なし

機能:  
秒の補正をします。要求は秒カウンタのカウントアップ時にサンプリングされ、秒が 0~29 秒の場合、秒桁のみ "0" になります。また、30~59 秒のときは分を桁上げして秒を"0"にします。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.22 RTC\_GetTimeAdjustReq

ADJUST 要求状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:  
`RTC_ReqState`  
`RTC_GetTimeAdjustReq(void);`

**引数:**  
なし

**機能:**  
ADJUST 要求状態を読み込みます。**RTC\_SetTimeAdjustReq()** の実行後に、この関数を実行し、繰り返して要求をしないようにします。

**戻り値:**  
ADJUST 要求状態を読み込みます。  
**RTC\_NO\_REQ** : ADJUST 要求なし  
**RTC\_REQ**: ADJUST 要求あり

### 11.2.3.23 RTC\_EnableClock

時計機能の起動

**関数のプロトタイプ宣言:**  
void  
RTC\_EnableClock(void);

**引数:**  
なし

**機能:**  
時計機能を有効にします。

**戻り値:**  
なし

### 11.2.3.24 RTC\_DisableClock

時計機能の終了

**関数のプロトタイプ宣言:**  
void  
RTC\_DisableClock(void);

**引数:**  
なし

**機能:**  
時計機能を無効にします。

**戻り値:**  
なし

### 11.2.3.25 RTC\_EnableAlarm

アラーム機能の起動

**関数のプロトタイプ宣言:**



void  
RTC\_EnableAlarm(void);

引数:  
なし

機能:  
アラーム機能を有効にします。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.26 RTC\_DisableAlarm

アラーム機能の終了

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
RTC\_DisableAlarm(void);

引数:  
なし

機能:  
アラーム機能を無効にします。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.27 RTC\_SetRTCINT

INTRTC 割り込みの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
RTC\_SetRTCINT(FunctionalState **NewState**);

引数:  
**NewState**: 以下から *INT RTC* の有効/無効を選択します。  
➤ **ENABLE**: INTRTC 割り込み有効  
➤ **DISABLE**: INTRTC 割り込み無効

機能:  
**NewState** が **ENABLE** の場合、RTCINT を有効にし、**NewState** が **DISABLE** の場合、RTCINT を無効にします。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.28 RTC\_SetAlarmOutput

ALARM 端子の出力設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetAlarmOutput(uint8_t Output);
```

引数:

**Output**: 以下から、アラーム端子の出力を選択します。

- **RTC\_LOW\_LEVEL**: “0” パルス
- **RTC\_PULSE\_1\_HZ**: 1Hz 周期の “0” パルス
- **RTC\_PULSE\_16\_HZ**: 16Hz 周期の “0” パルス
- **RTC\_PULSE\_2\_HZ**: 2Hz 周期の “0” パルス
- **RTC\_PULSE\_4\_HZ**: 4Hz 周期の “0” パルス
- **RTC\_PULSE\_8\_HZ**: 8Hz 周期の “0” パルス

機能:

アラーム端子の出力を設定します。

**Output** が **RTC\_LOW\_LEVEL** の場合、時計に同期してアラーム端子の出力は “0” になり、**Output** が **RTC\_PULSE\_n\*\_HZ** の場合、アラーム端子の出力は n\*Hz 周期の “0” パルスになります。(n\* は次のいずれかの値: 1,2,4,8,16)

戻り値:

なし

## 11.2.3.29 RTC\_ResetClockSec

時計秒カウンタのリセット

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_ResetClockSec(void);
```

引数:

なし

機能:

時計秒カウンタをリセットします。

戻り値:

なし

## 11.2.3.30 RTC\_GetResetClockSecReq

時計秒カウンタのリセット要求状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
RTC_ReqState  
RTC_GetResetClockSecReq(void);
```

引数:

なし

機能:

時計秒カウンタのリセット要求状態を読み込みます。リセット要求は、低速クロックを使用してサンプリングします。クロックが安定するために、**RTC\_ResetClockSec()** の実行後に本関数を実行してください。

戻り値:

リセット要求状態

**RTC\_NO\_REQ:** リセット要求なし

**RTC\_REQ:** リセット要求あり

### 11.2.3.31 RTC\_ResetAlarm

RTC アラームのリセット

関数のプロトタイプ宣言:

void

**RTC\_ResetAlarm(void);**

引数:

なし

機能:

アラームレジスタ(分、時、日、週桁レジスタ)を初期化します。

初期化後は、00 分、00 時、01 日、日曜日になります。

戻り値:

なし

### 11.2.3.32 RTC\_SetDateValue

時計の日付設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

**RTC\_SetDateValue(RTC\_DateTypeDef \* *DateStruct*);**

引数:

***DateStruct*:** うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体 (詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)を読み込みます。

**RTC\_SetLeapYear()**, **RTC\_SetYear()**, **RTC\_SetMonth()**, **RTC\_SetDate()**,

**RTC\_Setday()**を実行します。

戻り値:

なし

## 11.2.3.33 RTC\_GetDateValue

時計の日付の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetDateValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct);
```

引数:

**DateStruct**: うるう年、年、月、曜日、日を格納する含む構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計のうるう年、年、月、曜日、日を読み込みます。

**RTC\_GetLeapYear()**, **RTC\_GetYear()**, **RTC\_GetMonth()**, **RTC\_GetDate()**, **RTC\_Getday()**を実行します。

戻り値:

なし

## 11.2.3.34 RTC\_SetTimeValue

時計の時刻設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

**TimeStruct**: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を設定します。

**RTC\_SetHourMode()**, **RTC\_SetHour12()**, **RTC\_SetHour24()**, **RTC\_SetMin()**, **RTC\_SetSec()** を実行します。

戻り値:

なし

## 11.2.3.35 RTC\_GetTimeValue

時計の時刻の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

**TimeStruct**: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

**機能:**

時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を読み込みます。  
**RTC\_GetHourMode()**, **RTC\_GetHour()**, **RTC\_GetAMPM()**, **RTC\_GetMin()**,  
**RTC\_GetSec()** が実行されます。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.36 RTC\_SetClockValue

時計の日時設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_SetClockValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct,  
                  RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

**引数:**

**DateStruct**: うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体。

**TimeStruct**: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

**機能:**

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)、および、時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を設定します。

**RTC\_SetLeapYear()**, **RTC\_SetYear()**, **RTC\_SetMonth()**, **RTC\_SetDate()**,  
**RTC\_SetDay()**, **RTC\_SetHourMode()**, **RTC\_SetHour24()**, **RTC\_SetHour12()**,  
**RTC\_SetMin()**, **RTC\_SetSec()** を実行します。

**戻り値:**

なし

## 11.2.3.37 RTC\_GetClockValue

時計の日時の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
RTC_GetClockValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct,  
                  RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

**引数:**

**DateStruct**: うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体。

**TimeStruct**: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

**機能:**

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)、および、時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を設定します。

RTC\_GetLeapYear(), RTC\_GetYear(), RTC\_GetMonth(), RTC\_GetDate(),  
RTC\_GetDay(), RTC\_GetHourMode(), RTC\_GetHour(), RTC\_GetAMPM(),  
RTC\_GetMin(), RTC\_GetSec() を実行します。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.38 RTC\_SetAlarmValue

アラームの日時設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * AlarmStruct);
```

引数:

**AlarmStruct**: 日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

アラームの日時(日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM モード、秒を含む)を設定します。RTC\_SetDate(), RTC\_SetDay(), RTC\_SetHour12(), RTC\_SetHour24(), RTC\_SetMin() が実行されます。

戻り値:  
なし

## 11.2.3.39 RTC\_GetAlarmValue

アラームの日時の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * AlarmStruct);
```

引数:

**AlarmStruct**: 日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

アラームの日時(日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM モード、秒を含む)を読み込みます。

RTC\_GetDate(), RTC\_GetDay(), RTC\_GetHour(), RTC\_GetAMPM(),  
RTC\_GetMin() を実行します。

戻り値:  
なし

## 11.2.4 データ構造

### 11.2.4.1 RTC\_DateTypeDef

メンバ:

uint8\_t

**LeapYear**: うるう年を設定します:

- **RTC\_LEAP\_YEAR\_0**: 現在の年(今年)がうるう年
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_1**: 現在がうるう年から 1 年目
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_2**: 現在がうるう年から 2 年目
- **RTC\_LEAP\_YEAR\_3**: 現在がうるう年から 3 年目

uint8\_t

**Year** 年桁の値(0～99)。

uint8\_t

**Month** 月桁の値(1～12)。

uint8\_t

**Date** の日桁の値(1～31)。

uint8\_t

**Day** 週桁の値を以下。

- **RTC\_SUN**: 日曜日
- **RTC\_MON**: 月曜日
- **RTC\_TUE**: 火曜日
- **RTC\_WED**: 水曜日
- **RTC\_THU**: 木曜日
- **RTC\_FRI**: 金曜日
- **RTC\_SAT**: 土曜日

### 11.2.4.2 RTC\_TimeTypeDef

メンバ:

uint8\_t

**HourMode** 24 時間時計、12 時間時計のモード選択の値:

- **RTC\_12\_HOUR\_MODE**: 12 時間モード
- **RTC\_24\_HOUR\_MODE**: 24 時間モード

uint8\_t

**Hour** 時間桁の値。(24 時間モード:0～23、12 時間モード:0～11)

uint8\_t

**AmPm** 12 時間モード時の AM/PM の値:

- **RTC\_AM\_MODE**: AM モード
- **RTC\_PM\_MODE**: PM モード
- **RTC\_AMPM\_INVALID**: 24 時間モード

uint8\_t

**Min** 0～59 までの分桁の値。

uint8\_t

**Sec** 0～59 までの秒桁の値。

## 11.2.4.3 RTC\_AlarmTypeDef

メンバ:

uint8\_t

**Date** アラーム機能有効時の日桁の値(1～31)。

uint8\_t

**Day** アラーム機能有効時の週桁の値。

- **RTC\_SUN**: 日曜日
- **RTC\_MON**: 月曜日
- **RTC\_TUE**: 火曜日
- **RTC\_WED**: 水曜日
- **RTC\_THU**: 木曜日
- **RTC\_FRI**: 金曜日
- **RTC\_SAT**: 土曜日

uint8\_t

**Hour** アラーム機能有効時の時間桁の値。

uint8\_t

**AmPm** アラーム機能有効時の AM/PM 選択の値:

- **RTC\_AM\_MODE**: AM モード
- **RTC\_PM\_MODE**: PM モード
- **RTC\_AMPM\_INVALID**: 24 時間モード

uint8\_t

**Min** アラーム機能有効時の分桁の値(0～59)。



## 12. SBI

### 12.1 概要

本デバイスはシリアルバスインターフェースチャンネルを有し、各チャンネルはマルチマスタのI2Cバスとして動作可能です。

I2Cバスモードでは、SCLおよびSDAを通して外部デバイスと接続されます。

SBIチャンネルによりデータをフリーデータフォーマットで転送できます。フリーデータフォーマットでは、マスタモード時は送信、スレーブモード時は受信になります。

SBIドライバAPI関数は、SBIチャンネルの自己アドレス、クロック分周、ACKクロック生成等の設定、I2Cの開始・終了条件のデータ転送、データ受信・送信の制御、状態復帰、SBIチャンネルモードの表示などの機能の設定を行う関数セットです。

全ドライバAPIは、マクロ、データタイプ、構造、API定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_sbi.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_sbi.h

### 12.2 API関数

#### 12.2.1 関数一覧

- ◆ void SBI\_Enable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Disable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetI2CACK(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI\_InitI2C(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, SBI\_InitI2CTypeDef\* **InitI2CStruct**);
- ◆ void SBI\_SetI2CBitNum(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, uint32\_t **I2CBitNum**);
- ◆ void SBI\_SWReset(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_ClearI2CINTReq(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Generatel2Cstart(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Generatel2Cstop(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ SBI\_I2CState SBI\_GetI2CState(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetIdleMode(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI\_SetSendData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, uint32\_t **Data**);
- ◆ uint32\_t SBI\_GetReceiveData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetI2CFreeDataMode(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);

#### 12.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の4種類に分かれています。:

- 1) 共通機能の設定:  
SBI\_Enable(), SBI\_Disable(), SBI\_SetI2CACK(), SBI\_SetI2CBitNum(), SBI\_InitI2C()
- 2) 転送制御:  
SBI\_ClearI2CINTReq(), SBI\_Generatel2Cstart(),  
SBI\_Generatel2Cstop(), SBI\_SetSendData(), SBI\_GetReceiveData()
- 3) ステータス確認:  
SBI\_GetI2CState()
- 4) その他:  
SBI\_SWReset(), SBI\_SetIdleMode(), SBI\_EnableI2CFreeDataMode()

## 12.2.3 関数仕様

補足: 引数“TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**”は **TSB\_SBI0** を指定してください。

### 12.2.3.1 SBI\_Enable

シリアルバスインタフェース動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_Enable(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を有効にします。

戻り値:

なし

### 12.2.3.2 SBI\_Disable

シリアルバスインタフェース動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_Disable(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を無効にします。

戻り値:

なし

### 12.2.3.3 SBI\_SetI2CACK

I2C バスモードにおける ACK 選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CACK(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
               FunctionalState NewState)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**NewState**: ACK の発生有無を選択します。

➤ **ENABLE**: 発生する。

- **DISABLE:** 発生しない。

**機能:**

I2C 通信のアクノリッジメントクロック(ACK)のためのクロックを発生する/発生しないを選択します。**NewState**を **ENABLE** にすると ACK クロックを発生し、**DISABLE** にすると ACK クロックを発生しません。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.4 SBI\_InitI2C

I2C バスモードにおける通信の初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_InitI2C(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
            SBI_InitI2CTypeDef* InitI2CStruct)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**InitI2CStruct:** SBI に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

**機能:**

I2C バスアドレス、転送ビット数、出力クロックの周波数選択、ACK クロック生成、I2C 転送モードの初期化を行います。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.5 SBI\_SetI2CBitNum

I2C バスモードにおける転送ビット数の選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_SetI2CBitNum(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                 uint32_t I2CBitNum)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**I2CBitNum:** 転送ビット数(1~8)を選択します。

- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_8:** データ長 8
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_1:** データ長 1
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_2:** データ長 2
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_3:** データ長 3
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_4:** データ長 4
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_5:** データ長 5
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_6:** データ長 6
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_7:** データ長 7

**機能:**

転送ビット数を選択します。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.6 SBI\_SWReset

ソフトウェアリセットの発生

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_SWReset(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

シリアルバスインターフェース回路を初期化するリセット信号を発生します。リセット後、すべての制御レジスタやステータスフラグはリセット後の値に初期化されます。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.7 SBI\_ClearI2CINTReq

I2C バスモードにおける INTSBIx 割り込み要求解除

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_ClearI2CINTReq(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

SBI 割り込み要求を解除します。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.8 SBI\_GenerateI2CStart

I2C バスモードにおけるスタート状態の発生

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_GenerateI2CStart(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

I2C バスモードをマスタにし、I2c バスにスタートコンディションを出力します。

**戻り値:**

なし

### 12.2.3.9 SBI\_Generatel2CStop

I2C バスモードにおけるストップ状態の発生

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_Generatel2CStop(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

I2C バスモードをマスタにし、I2c バスにストップコンディションを出力します。

**戻り値:**

なし

### 12.2.3.10 SBI\_GetI2CState

I2C バスモードにおける SBI チャンネルの状態の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
SBI_I2CState  
SBI_GetI2CState(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

I2C バスモード中の SBI チャンネルの状態を読み込みます。SBI 割り込みの ISR で本関数をコールし、SBI チャンネルの状態によってプロセスを変更します。

**戻り値:**

I2C モードでの SBI チャンネルの状態

### 12.2.3.11 SBI\_SetIdleMode

IDLE モード時の動作の許可/禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_SetIdleMode(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**NewState:** システムが idle モードの時の動作を指定します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

**NewState** が **ENABLE** の場合 IDLE モードに遷移しても SBI チャンネルは動作します。  
**DISABLE** を選択すると IDLE モード時に禁止されます。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.12 SBI\_SetSendData

データ送信

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_SetSendData(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                uint32_t Data)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**Data:** 送信データ。(最大値は 0xFF です)

**機能:**

設定データを送信します。**SBI\_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを送信します。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.13 SBI\_GetReceiveData

データ受信

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint32_t  
SBI_GetReceiveData(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

データを受信します。**SBI\_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを受信します。

**戻り値:**

受信データ

## 12.2.3.14 SBI\_SetI2CFreeDataMode

アドレス認識モードの指定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CFreeDataMode(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                        FunctionalState NewState)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**NewState**: アドレス認識モードを指定します。

- **ENABLE**: スレーブアドレスを認識しない。(フリーデータフォーマット)
- **DISABLE**: スレーブアドレスを認識する。

機能:

I2C モードにおけるデータフォーマットをフリーデータフォーマットにします。フリーデータフォーマットの場合、スレーブデバイスがデータ受信中にマスターデバイスは常にデータ送信を行います。転送データをノーマル I2C フォーマットにする場合は **SBI\_InitI2C()** をコールしてください。

戻り値:

なし

## 12.2.4 データ構造

### 12.2.4.1 SBI\_InitI2CTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**I2CSelfAddr**: I2C モードにおけるスレーブアドレスを指定します。(0x01~0xFE)

uint32\_t

**I2CDataLen**: I2C モードにおける SBI チャンネルの転送ビット数を指定します。

- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_8**: データ長 8
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_1**: データ長 1
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_2**: データ長 2
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_3**: データ長 3
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_4**: データ長 4
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_5**: データ長 5
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_6**: データ長 6
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_7**: データ長 7

uint32\_t

**I2CClkDiv**: I2C 転送のソースクロックを選択します。

- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_104**: fsys/104
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_136**: fsys/136
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_200**: fsys/200
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_328**: fsys/328
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_584**: fsys/584
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_1096**: fsys/1096
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_2120**: fsys/2120

FunctionalState

**I2CACKState:** ACK の有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効
- **DISABLE:** 無効

## 12.2.4.2 SBI\_I2CState

メンバ:

uint32\_t

**All:** I2C モードの全ての状態

ビットフィールド:

uint32\_t

**LastRxBit:** 最終受信ビットモニタ

uint32\_t

**GeneralCall:** ゼネラルコール検出モニタ

uint32\_t

**SlaveAddrMatch:** スレーブアドレス一致モニタ

uint32\_t

**ArbitrationLost:** アービトレーションロスト検出モニタ

uint32\_t

**INTReq:** 割り込み要求状態モニタ

uint32\_t

**BusState:** バス状態モニタ

uint32\_t

**TRx:** 送信/受信選択状態モニタ

uint32\_t

**MasterSlave:** マスタ/スレーブ選択状態モニタ



## 13. SSP

### 13.1 概要

本デバイスは、同期式シリアルインターフェースを (SSP: Synchronous Serial Port) を 1 チャンネル内蔵しています。(SSP0)

同期式シリアルインターフェースは、周辺デバイスとシリアル通信を、3 タイプの同期式シリアルインターフェースで行います。

同期式シリアルインターフェースは、周辺デバイスから受信したデータのシリアル-パラレル変換を行います。送信パスは、送信モードの 16 ビット幅、8 層の送信 FIFO のデータをバッファリングし、受信パスは受信モードの 16 ビット幅、8 層の受信 FIFO のデータをバッファリングします。シリアルデータは SPDO で送信され、SPDI で受信されます。SSP はプログラマブルプリスケールを内蔵し、入力クロック fSYS からシリアル出力クロック(CPCLK)を出力します。生成します。動作モード、フレームフォーマット、SSP のデータサイズは制御レジスタにプログラムされています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_ssp.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_ssp.h

### 13.2 API 関数

#### 13.2.1 関数一覧

- ◆ void SSP\_Enable(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ void SSP\_Disable(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ void SSP\_Init(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, SSP\_InitTypeDef \* **InitStruct**);
- ◆ void SSP\_SetClkPreScale(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
uint8\_t **PreScale**, uint8\_t **ClkRate**);
- ◆ void SSP\_SetFrameFormat(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
SSP\_FrameFormat **FrameFormat**);
- ◆ void SSP\_SetClkPolarity(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
SSP\_ClkPolarity **ClkPolarity**);
- ◆ void SSP\_SetClkPhase(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, SSP\_ClkPhase **ClkPhase**);
- ◆ void SSP\_SetDataSize(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, uint8\_t **DataSize**);
- ◆ void SSP\_SetSlaveOutputCtrl(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP\_SetMSMode(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, SSP\_MS\_Mode **Mode**);
- ◆ void SSP\_SetLoopBackMode(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP\_SetTxData(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, uint16\_t **Data**);
- ◆ uint16\_t SSP\_GetRxData(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ WorkState SSP\_GetWorkState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ SSP\_FIFOState SSP\_GetFIFOState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
SSP\_Direction **Direction**);
- ◆ void SSP\_SetINTConfig(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, uint32\_t **IntSrc**);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetINTConfig(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetPreEnableINTState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetPostEnableINTState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**);
- ◆ void SSP\_ClearINTFlag(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**, uint32\_t **IntSrc**);

## 13.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 6 種類に分かれています。:

- 1) SSP\_Init()を用いた共通関数  
SSP\_SetClkPreScale(), SSP\_SetFrameFormat(), SSP\_SetClkPolarity(),  
SSP\_SetClkPhase(), SSP\_SetDataSize(), SSP\_SetMSMode()
- 2) データ送受信:  
SSP\_SetTxData(), SSP\_GetRxData()
- 3) SSP 割り込み関連:  
SSP\_SetIntConfig(), SSP\_GetIntConfig(), SSP\_GetPreEnableINTState(),  
SSP\_GetPostEnableINTState(), SSP\_ClearINTFlag()
- 4) 状態の取得:  
SSP\_GetWorkState(), SSP\_GetFIFOState()
- 5) モジュールの有効/無効設定:  
SSP\_Enable(), SSP\_Disable()
- 6) その他:  
SSP\_SetSlaveOutputCtrl(), SSP\_SetLoopBackMode()

## 13.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ“TSB\_SSP\_TypeDef\* **SSPx**”は、**TSB\_SSP0** を設定してください。

### 13.2.3.1 SSP\_Enable

同期式シリアルインタフェース動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Enable(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

機能:

SSP 動作を有効にします。

戻り値:

なし

### 13.2.3.2 SSP\_Disable

同期式シリアルインタフェース動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Disable(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**機能:**

SSP 動作を無効にします。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.3 SSP\_Init

SSP 通信の初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_Init(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
         SSP_InitTypeDef* InitStruct)
```

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**InitStruct**: SSP に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

```
typedef struct {  
    SSP_FrameFormat FrameFormat;  
    uint8_t PreScale;  
    uint8_t ClkRate;  
    SSP_ClkPolarity ClkPolarity;  
    SSP_ClkPhase ClkPhase;  
    uint8_t DataSize;  
    SSP_MS_Mode Mode;  
} SSP_InitTypeDef;
```

**機能:**

SSP 通信の初期化を行います。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.4 SSP\_SetClkPreScale

送受信のビットレート設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_SetClkPreScale(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   uint8_t PreScale,  
                   uint8_t ClkRate)
```

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**PreScale**: クロックプリスケール除数を 2~254 の間で設定します。

**ClkRate**: シリアルクロックレートを 0~255 の間で設定します。

**機能:**

送受信のビットレートを設定します。**SSP\_Init()** により呼び出されます。

Tx と Rx 用の本ビットレートは下記計算式で求めることができます。  
$$\text{BitRate} = \text{fSYS} / (\text{PreScale} \times (1 + \text{ClkRate}))$$
**fSYS** はシステム周波数

戻り値:  
なし

## 13.2.3.5 SSP\_SetFrameFormat

フレームフォーマットの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetFrameFormat(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   SSP_FrameFormat FrameFormat)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**FrameFormat**: フレームフォーマットを選択します。

- **SSP\_FORMAT\_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_SSI**: SSI シリアルフレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

機能:

フレームフォーマットを選択します。**SSP\_Init()** により呼び出されます。

戻り値:  
なし

## 13.2.3.6 SSP\_SetClkPolarity

SPxCLK 極性の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPolarity(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   SSP_ClkPolarity ClkPolarity)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**ClkPolarity**: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP\_POLARITY\_LOW**: SPxCLK は Low 状態。
- **SSP\_POLARITY\_HIGH**: SPxCLK は High 状態。

機能:

SPxCLK 極性を選択します。**SSP\_Init()** により呼び出されます。

戻り値:  
なし

## 13.2.3.7 SSP\_SetClkPhase

SPxCLK フェーズの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPhase(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                SSP_ClkPhase ClkPhase)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**ClkPhase**: SPxCLK フェーズを選択します。

- **SSP\_PHASE\_FIRST\_EDGE**: 1st クロックエッジでデータを取り込み
- **SSP\_PHASE\_SECOND\_EDGE**: 2nd クロックエッジでデータを取り込み

機能:

SPxCLK フェーズを選択します。**SSP\_Init()** により呼び出されます。

戻り値:

なし

## 13.2.3.8 SSP\_SetDataSize

データサイズの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
Void  
SSP_SetDataSize(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                uint8_t DataSize)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**DataSize**: データサイズを 4~16 の間で選択します。

機能:

データサイズを選択します。**SSP\_Init()** により呼び出されます。

戻り値:

なし

## 13.2.3.9 SSP\_SetSlaveOutputCtrl

スレーブモード SPxDO 出力の制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetSlaveOutputCtrl(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                       FunctionalState NewState)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**NewState**: スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

**戻り値:**

なし

## 13.2.3.10 SSP\_SetMSMode

マスタ/ スレーブモードの選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_SetMSMode(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
               SSP_MS_Mode Mode)
```

**引数:**

**SSPx:** SSP チャンネルを指定します。

**Mode:** マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP\_MASTER:** デバイスがマスタ
- **SSP\_SLAVE:** デバイスがスレーブ

**機能:**

マスタ/ スレーブモードを選択します。

**戻り値:**

なし

## 13.2.3.11 SSP\_SetLoopBackMode

ループバックモードの制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_SetLoopBackMode(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                     FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**SSPx:** SSP チャンネルを指定します。

**NewState:** ループバックモードの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

ループバックモードを設定します。

例えば、ループバックモードが有効の場合、送受信間にセルフテストを行います。

**戻り値:**

なし

## 13.2.3.12 SSP\_SetTxData

送信 FIFO のデータ設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetTxData(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
               uint16_t Data)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**Data**: 送信データを 0～16 ビットの間で設定します。

機能:

送信 FIFO にデータを設定します。

戻り値:

なし

## 13.2.3.13 SSP\_GetRxData

受信 FIFO からのデータ読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
SSP_GetRxData(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO から受信データを読み込みます。

戻り値:

受信データ

## 13.2.3.14 SSP\_GetWorkState

ビジーフラグの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
SSP_GetWorkState(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

機能:

ビジーフラグを読み込みます。

戻り値:

ビジーフラグ

BUSY: ビジー  
DONE: アイドル

## 13.2.3.15 SSP\_GetFIFOState

送受信 FIFO の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
SSP_FIFOState  
SSP_GetFIFOState(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                  SSP_Direction Direction)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**Direction**: 送受信方向を選択します。

- **SSP\_RX**: 受信 FIFO
- **SSP\_TX**: 送信 FIFO

機能:

送受信 FIFO の状態を読み込みます。

例えば、送信 FIFO の状態を判断した後でのデータ送信処理は次の通り。

```
SSP_FIFOState fifoState;  
  
fifoState = SSP_GetFIFOState(TSB_SSP0, SSP_TX);  
if ((fifoState == SSP_FIFO_EMPTY) || (fifoState == SSP_FIFO_NORMAL))  
{ SSP_SetTxData(TSB_SSP0, data_to_be_sent); }
```

戻り値:

送受信 FIFO の状態。

**SSP\_FIFO\_EMPTY**: FIFO が空の状態。

**SSP\_FIFO\_NORMAL**: FIFO がフル、かつ空ではない状態。

**SSP\_FIFO\_INVALID**: FIFO が無効の状態。

**SSP\_FIFO\_FULL**: FIFO がフルの状態。

## 13.2.3.16 SSP\_SetINTConfig

割り込みの制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetINTConfig(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                  uint32_t IntSrc)
```

引数:

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**IntSrc**: 割り込みの許可/禁止を選択します。

- **SSP\_INTCFG\_NONE**: すべて禁止。
- **SSP\_INTCFG\_ALL**: すべて許可。

任意の割り込みを“|”で選択します。

- **SSP\_INTCFG\_RX\_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込み。
- **SSP\_INTCFG\_RX\_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込み。



- **SSP\_INTCFG\_RX**: 受信 FIFO 割り込み(受信 FIFO の半分以上がフル)
- **SSP\_INTCFG\_TX**: 送信 FIFO 割り込み(送信 FIFO の半分以上がフル)

**機能:**

割り込みの許可/ 禁止を選択します。

例えば、送受信割り込みを設定する処理は次の通り。

**SSP\_SetINTConfig( TSB\_SSP0, SSP\_INTCFG\_RX | SSP\_INTCFG\_TX )**

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.17 SSP\_GetINTConfig

割り込み制御の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

SSP\_INTState

SSP\_GetINTConfig(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**)

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**機能:**

割り込みの許可/禁止状態を取得します。

例えば、SSP\_SetINTConfig() で許可または禁止した割り込みソースを確認することができます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 割り込み設定状態。詳細は"データ構造"を参照。

### 13.2.3.18 SSP\_GetPreEnableINTState

許可前の割り込み状態の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

SSP\_INTState

SSP\_GetPreEnableINTState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**)

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**機能:**

許可前の割り込み状態を読み込みます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

### 13.2.3.19 SSP\_GetPostEnableINTState

許可後の割り込み状態の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

SSP\_INTState

SSP\_GetPostEnableINTState(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**)

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**機能:**

禁止前の割り込み状態を読み込みます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

## 13.2.3.20 SSP\_ClearINTFlag

割り込みフラグのクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

SSP\_ClearINTFlag(TSB\_SSP\_TypeDef \* **SSPx**,  
uint32\_t **IntSrc**)

**引数:**

**SSPx**: SSP チャンネルを指定します。

**IntSrc**: クリアする割り込みフラグを選択します。

- **SSP\_INTCFG\_RX\_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込みフラグ。
- **SSP\_INTCFG\_RX\_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込みフラグ
- **SSP\_INTCFG\_ALL**: すべての割り込みフラグ。

**機能:**

割り込みフラグをクリアします。

**戻り値:**

なし

## 13.2.4 データ構造

### 13.2.4.1 SSP\_InitTypeDef

**メンバ:**

SSP\_FrameFormat

**FrameFormat**: フレームフォーマットを選択します。

- **SSP\_FORMAT\_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_SSI**: SSI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

uint8\_t

**PreScale**: クロックプリスケール除数を 2~254 の間で設定します。

SSP\_ClkPolarity

**ClkPolarity**: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP\_POLARITY\_LOW**: SPxCLK 極性は Low 状態。

- **SSP\_POLARITY\_HIGH**: SPxCLK 極性は High 状態。

SSP\_ClkPhase

**ClkPhase**: SPxCLK フェーズを設定します。

- **SSP\_PHASE\_FIRST\_EDGE**: 1st クロックエッジでデータを取り込み
- **SSP\_PHASE\_SECOND\_EDGE**: 2nd クロックエッジでデータを取り込み

uint8\_t

**DataSize**: データを 4～16 ビットの間で設定します。

SSP\_MS\_Mode

**Mode**: マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP\_MASTER**: デバイスがマスタ
- **SSP\_SLAVE**: デバイスがスレーブ

## 13.2.4.2 SSP\_INTState

メンバ:

uint32\_t

**All**: 割り込み要因

ビットフィールド:

uint32\_t

**OverRun**: 1 オーバー欄割り込み

uint32\_t

**TimeOut**: 1 受信タイムアウト

uint32\_t

**Rx**: 1 受信

uint32\_t

**Tx**: 1 送信

uint32\_t

**Reserved**: 28 未使用

## 14. TMRB

### 14.1 概要

本デバイスは、8 チャンネルの多機能 16 ビットタイマ/ イベントカウンタ (TMRB0 ~ TMRB7)を内蔵しています。各チャンネルは下記モードで動作します。

- 16 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットイベントカウンタモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード
- タイマ同期モード(各 4 チャンネルの出力設定可能)

また、キャプチャ機能を利用することで、次のような用途に使用することができます。

- パルス幅測定
- 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力
- 時間差測定

本ドライバは、クロック分割、サイクル、デューティ期間、キャプチャタイミング、フリップフロップの設定など各チャンネルの設定を行う関数セットです。また、アップカウンタ、フリップフロップ出力の制御など動作状態の制御、割り込み要因、キャプチャレジスタ値の取得など、ステータスの表示も行います。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_tmr.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_tmr.h

### 14.2 API 関数

#### 14.2.1 関数一覧

- ◆ void TMRB\_Enable(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_Disable(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetRunState(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **Cmd**);
- ◆ void TMRB\_Init(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, TMRB\_InitTypeDef \* **InitStruct**);
- ◆ void TMRB\_SetCaptureTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **CaptureTiming**);
- ◆ void TMRB\_SetFlipFlop(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, TMRB\_FFOutputTypeDef \* **FFStruct**);
- ◆ TMRB\_INTFactor TMRB\_GetINTFactor(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetINTMask(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **INTMask**);
- ◆ void TMRB\_ChangeLeadingTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **LeadingTiming**);
- ◆ void TMRB\_ChangeTrailingTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **TrailingTiming**);
- ◆ uint16\_t TMRB\_GetUpCntValue(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ uint16\_t TMRB\_GetCaptureValue(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint8\_t **CapReg**);
- ◆ void TMRB\_ExecuteSWCapture(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetIdleMode(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB\_SetSyncMode(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB\_SetDoubleBuf(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**, uint8\_t **WriteRegMode**);

- ◆ void TMRB\_SetExtStartTrg(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**,  
uint8\_t **TrgMode**);
- ◆ void TMRB\_SetClkInCoreHalt(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint8\_t **ClkState**);

## 14.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。:

- 1) 各タイマの設定:  
TMRB\_Enable(), TMRB\_Disable(), TMRB\_Init(), TMRB\_SetRunState(),  
TMRB\_ChangeLeadingTiming(), TMRB\_ChangeTrailingTiming()
- 2) キャプチャ機能の設定:  
TMRB\_SetCaptureTiming(), TMRB\_ExecuteSWCapture()
- 3) ステータスの確認:  
TMRB\_GetINTFactor(), TMRB\_GetUpCntValue(), TMRB\_GetCaptureValue()
- 4) その他:  
TMRB\_SetFlipFlop(), TMRB\_SetINTMask(), TMRB\_SetIdleMode(),  
TMRB\_SetSyncMode(), TMRB\_SetDoubleBuf(), TMRB\_SetExtStartTrg(),  
TMRB\_SetClkInCoreHalt()

## 14.2.3 関数仕様

補足: 引数に記述されている “TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**” は下記から選択してください。  
**TSB\_TB0, TSB\_TB1, TSB\_TB2, TSB\_TB3, TSB\_TB4, TSB\_TB5,**  
**TSB\_TB6, TSB\_TB7**

### 14.2.3.1 TMRB\_Enable

TMRB 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void  
TMRB\_Enable(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

TMRB 動作を有効にします。

戻り値:

なし

### 14.2.3.2 TMRB\_Disable

TMRB 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void  
TMRB\_Disable(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

TMRB 動作を無効にします。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.3 TMRB\_SetRunState

カウンタ動作の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_SetRunState(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  uint32_t Cmd)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**Cmd**: カウンタ動作を選択します。

- **TMRB\_RUN**: カウント
- **TMRB\_STOP**: 停止&クリア

**機能:**

**Cmd** が **TMRB\_RUN** の場合、アップカウンタがカウントを開始します。

**Cmd** が **TMRB\_STOP** の場合、アップカウンタはカウントを停止し、同時にカウンタをクリアします。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.4 TMRB\_Init

TMRB チャンネルの初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_Init(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
           TMRB_InitTypeDef* InitStruct)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**InitStruct**: TMRB に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

**機能:**

カウンティングモード、クロック分周、アップカウンタ設定、サイクル、デューティ期間の初期設定を行います。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.5 TMRB\_SetCaptureTiming

キャプチャタイミングの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetCaptureTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                      uint32_t CaptureTiming)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**CaptureTiming**: キャプチャタイミングを選択します。

- **TMRB\_DISABLE\_CAPTURE**: キャプチャ機能を無効にします。
- **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING**: TBxIN↑
- **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING\_FALLING**: TBxIN↑ TBxIN↓
- **TMRB\_CAPTURE\_OUTPUT\_EDGE**: TBxOUT↑ TBxOUT↓

機能:

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING** の場合、TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING\_FALLING** の場合、TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込み、TBxIN 端子入力の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1)にカウント値を取り込みます。

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_OUTPUT\_EDGE** の場合、16 ビットタイマ一致出力(TBxOUT)の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBnCP0)にカウント値を取り込み、TBxOUT の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBnCP1)にカウント値を取り込みます。(TMRB2, TMRB5)

補足: **TMRB\_CAPTURE\_OUTPUT\_EDGE** は TMRB0~TMRB7 まで有効です。

TMRB3~5: TB2OUT  
TMRB0~2: TB7OUT

戻り値:

なし

## 14.2.3.6 TMRB\_SetFlipFlop

フリップフロップ機能の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetFlipFlop(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                 TMRB_FFOutputTypeDef* FFStruct)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**FFStruct**: TMRB のフリップフロップ機能に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

フリップフロップ出力変更のタイミングを設定します。また出力レベルも設定できます。

戻り値:  
なし

## 14.2.3.7 TMRB\_GetINTFactor

割り込み要因の取得

関数のプロトタイプ宣言:

TMRB\_INTFactor  
TMRB\_GetINTFactor(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

割り込み要因を取得します。

戻り値:

TMRB の割り込み要因:

**MatchLeadingTiming**(Bit0): 一致フラグ(TBxRG0)

**MatchTrailingTiming**(Bit1): 一致フラグ(TBxRG1)

**OverFlow**(Bit2): オーバーフローフラグ

補足:

異なる割り込み要因を処理する場合は、以下のように記述してください。

```
TMRB_INTFactor factor = TMRB_GetINTFactor(TSB_TB0);  
if (factor.Bit.MatchLeadingTiming) {  
    // Do A  
}  
  
if (factor.Bit.MatchTrailingTiming) {  
    // Do B  
}  
  
if (factor.Bit.OverFlow) {  
    // Do C  
}
```

## 14.2.3.8 TMRB\_SetINTMask

割り込みマスクの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
TMRB\_SetINTMask(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**,  
uint32\_t **INTMask**)

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**INTMask**: マスクする割り込みを選択します。

➤ **TMRB\_MASK\_MATCH\_TRAILINGTIMING\_INT**: 一致フラグ(TBxRG0)



- **TMRB\_MASK\_MATCH\_LEADINGTIMING\_INT**: 一致フラグ(TBxRG1)
- **TMRB\_MASK\_OVERFLOW\_INT**: オーバーフロー割り込み。
- **TMRB\_NO\_INT\_MASK**: マスクしない。

**機能:**

**TMRB\_MASK\_MATCH\_TRAILINGTIMING\_INT** 選択時、アップカウンタ値と TBxRG1 が一致した場合、割り込みは発生しません。

**TMRB\_MASK\_MATCH\_LEADINGTIMING\_INT** 選択時、アップカウンタ値と TBxRG0 が一致した場合、割り込みは発生しません。

**TMRB\_MASK\_OVERFLOW\_INT** 選択時、オーバーフロー発生時の割り込みは発生しません。

**TMRB\_NO\_INT\_MASK** 選択時、割り込みマスクはすべてクリアされます。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.9 TMRB\_ChangeLeadingTiming

デューティの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_ChangeLeadingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                          uint32_t LeadingTiming)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**LeadingTiming**: デューティ値を設定します。最大値は 0xFFFF です。

**機能:**

デューティを設定します。実際のデューティのインターバルは、CG の校正と **ClkDiv**(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

**戻り値:**

なし

**補足:**

**LeadingTiming** は **TrailingTiming** を超えることはできません。

## 14.2.3.10 TMRB\_ChangeTrailingTiming

周期の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_ChangeTrailingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                           uint32_t TrailingTiming)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**TrailingTiming**: 周期を設定します。最大は 0xFFFF です。

**機能:**

周期を設定します。実際の周期は、CG の校正と *ClkDiv*(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

**戻り値:**

なし

**補足:**

*TrailingTiming* は *LeadingTiming* より小さくすることはできません。

## 14.2.3.11 TMRB\_GetUpCntValue

アップカウンタ値の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint16_t  
TMRB_GetUpCntValue(TSB_TB_TypeDef* TBx)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

アップカウンタ値の読み込みを行います。

**戻り値:**

アップカウンタ値

## 14.2.3.12 TMRB\_GetCaptureValue

キャプチャレジスタの読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint16_t  
TMRB_GetCaptureValue(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                     uint8_t CapReg)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**CapReg**: キャプチャレジスタを選択します。

- **TMRB\_CAPTURE\_0**: キャプチャレジスタ 0
- **TMRB\_CAPTURE\_1**: キャプチャレジスタ 1

**機能:**

**CapReg** が **TMRB\_CAPTURE\_0** の場合、キャプチャレジスタ 0 の値を読み込み、**CapReg** が **TMRB\_CAPTURE\_1** の場合、キャプチャレジスタ 1 の値を読み込みます。

**戻り値:**

キャプチャされた値

## 14.2.3.13 TMRB\_ExecuteSWCapture

ソフトウェアキャプチャの実行

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_ExecuteSWCapture(TSB_TB_TypeDef* TBx)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

キャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。

戻り値:

なし

## 14.2.3.14 TMRB\_SetIdleMode

IDLE 時の動作設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetIdleMode(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**NewState**: IDLE 時の動作を指定します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

機能:

**NewState** が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも TMRB チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

戻り値:

なし

## 14.2.3.15 TMRB\_SetSyncMode

同期モードの切り替え

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetSyncMode(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを以下から選択します。

**TSB\_TB1, TSB\_TB2, TSB\_TB3, TSB\_TB5, TSB\_TB6, TSB\_TB7**

**NewState:** 同期モードを切り替えます。

- **ENABLE:** 同期動作
- **DISABLE:** 個別動作(チャンネル毎)

**機能:**

TMRB1~TMRB3 を同期モードに設定すると、TMRB0 のスタートに同期して動作がスタートし、TMRB5~TMRB7 を同期モードに設定すると、TMRB4 のスタートに同期して動作がスタートします。

**戻り値:**

なし

**補足:**

同期モードを使用するために、TMRB0, TMRB4 のカウントを開始する前に、**TMRB\_SetRunState()** によって TMRB1~TMRB3、TMRB5~TMRB7 をスタートしてください。

## 14.2.3.16 TMRB\_SetDoubleBuf

ダブルバッファ動作の制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_SetDoubleBuf(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState,  
                  uint8_t WriteRegMode)
```

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**NewState:** ダブルバッファの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**WriteRegMode:** ダブルバッファがイネーブルの場合のタイマレジスタ 0 および 1 への書き込みタイミングを指定します。

- **TMRB\_WRITE\_REG\_SEPARATE:** タイマレジスタ 0 および 1 は個別に書き込みが可能です。一方のレジスタのみ書き込み準備が完了した場合も同様です。
- **TMRB\_WRITE\_REG\_SIMULTANEOUS:** 両方のレジスタの書き込み準備が完了していない場合、タイマレジスタ 0 および 1 への書き込みはできません。

**機能:**

TBxRG0 レジスタ(**LeadingTiming**)と TBxRG1 (**TrailingTiming**)およびこれらのバッファは、同一アドレスへ割り付けられます。ダブルバッファがディセーブルの場合、同一の値はレジスタとそのバッファに書き込まれます。

ダブルバッファがイネーブルの場合、その値は各レジスタのバッファのみに書き込まれます。そのため初期値をレジスタ(TBxRG0 (**LeadingTiming**) および TBxRG1 (**TrailingTiming**))へ書き込むためには、ダブルバッファは **DISABLE** に設定してください。その後、イネーブルのダブルバッファには、レジスタへ書き込む次のデータが書き込まれます。データは対応する割り込みが発生した場合に自動的にロードされます。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.17 TMRB\_SetExtStartTrg

外部トリガの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetExtStartTrg (TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                    FunctionalState NewState,  
                    uint8_t TrgMode)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**NewState**: カウントスタート方法を選択します。

➤ **ENABLE**: 外部トリガ

➤ **DISABLE**: ソフトスタート

**TrgMode**: 外部トリガのアクティブエッジを選択します。

➤ **TMRB\_TRG\_EDGE\_RISING**: 立ち上がりエッジ

➤ **TMRB\_TRG\_EDGE\_FALLING**: 立ち下りエッジ

機能:

外部トリガによる変換開始の有無とアクティブエッジの設定を行います。

戻り値:

なし

## 14.2.3.18 TMRB\_SetClkInCoreHalt

デバッグ HALT 中のクロック動作

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetClkInCoreHalt (TSB_TB_TypeDef* TBx, uint8_t ClkState)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**ClkState**: デバッグ HALT 中のクロック動作を選択します。

➤ **TMRB\_RUNNING\_IN\_CORE\_HALT**: 動作

➤ **TMRB\_STOP\_IN\_CORE\_HALT**: 停止

機能:

デバッグツール使用時に HALT モードに遷移した場合、TMRB クロック動作/停止の設定を行ないます。

戻り値:

なし

## 14.2.4 データ構造

### 14.2.4.1 TMRB\_InitTypeDef

メンバ:

```
uint32_t
```

**Mode:** タイマモードを選択します。

- **TMRB\_INTERVAL\_TIMER:** インタバルタイマ
- **TMRB\_EVENT\_CNT:** イベントカウンタモード

uint32\_t

**ClkDiv:** インタバルタイマのソースクロックの分周を選択します。

- **TMRB\_CLK\_DIV\_2:** fperiph / 2
- **TMRB\_CLK\_DIV\_8:** fperiph / 8
- **TMRB\_CLK\_DIV\_32:** fperiph / 32

uint32\_t

**TrailingTiming:** TBnRG1 へ書き込む周期 (最大 0xFFFF)

uint32\_t

**UpCntCtrl:** アップカウンタの動作を選択します。

- **TMRB\_FREE\_RUN:** 周期が一致した後も、0xFFFF になるまでアップカウンタは停止しません。その後、カウンタがクリアされ、0 からカウントを開始します。
- **TMRB\_AUTO\_CLEAR:** **TrailingTiming** と一致したときに、0 クリアされ、再スタートします。

uint32\_t

**LeadingTiming:** TBnRG0 に書き込むデューティ (最大 0xFFFF)。**TrailingTiming** 以上の値を設定できません。

## 14.2.4.2 TMRB\_FFOutputTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**FlipflopCtrl:** フリップフロップのレベルを選択します。

- **TMRB\_FLIPFLOP\_INVERT:** TBxFF0 の値を反転(ソフト反転)します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_SET:** TBxFF0 を"1"にセットします。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_CLEAR:** TBxFF0 を"0"にクリアします。

uint32\_t

**FlipflopReverseTrg:** 以下から、フリップフロップの反転トリガを選択します。

- **TMRB\_DISALBE\_FLIPFLOP:** 反転トリガを無効にします。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_TAKE\_CATPURE\_0:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 0 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_TAKE\_CATPURE\_1:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 1 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_MATCH\_TRAILINGTIMING:** アップカウンタと周期との一致時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_MATCH\_LEADINGTIMING:** アップカウンタとデューティとの一致時にタイマフリップフロップを反転します。

## 14.2.4.3 TMRB\_INTFactor

**メンバ:**

uint32\_t

**All:** TMRB 割り込み要因

**ビットフィールド:**

uint32\_t

**MatchLeadingTiming:** 1 デューティとの一致検出

uint32\_t

**MatchTrailingTiming:** 1 周期との一致検出

uint32\_t

**OverFlow:** 1 オーバーフロー

uint32\_t

**Reserverd:** 29 -

## 15. SIO/UART

### 15.1 概要

本デバイスのシリアル I/O チャンネルは、I/O インタフェースモード(同期通信)と 7, 8, 9 ビット長の UART モード(非同期通信)を実装しています。9 ビット UART モードでは、シリアルリンク(マルチコントローラ・システム)でマスタコントローラがスレーブコントローラを起動するときにウェイクアップ機能が使用されます。

本ドライバは、ボーレート、ビット長、パリティチェック、ストップビット、フローコントロールなどの各チャンネルの設定に関する関数、およびデータ送受信、エラーチェックなどの動作に関する機能を備えています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_uart.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_uart.h

### 15.2 API 関数

#### 15.2.1 関数一覧

- ◆ void UART\_Enable(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_Disable(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ WorkState UART\_GetBufState(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, uint8\_t **Direction**)
- ◆ void UART\_SWReset(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_Init(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, UART\_InitTypeDef\* **InitStruct**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, uint32\_t **Data**)
- ◆ void UART\_DefaultConfig(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ UART\_Err UART\_GetErrState(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_SetWakeUpFunc(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetIdleMode(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_FIFOConfig(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetFIFOTransferMode(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **TransferMode**)
- ◆ void UART\_TRxAutoDisable(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
UART\_TRxDisable **TRxAutoDisable**)
- ◆ void UART\_RxFIFOINTCtrl(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_TxFIFOINTCtrl(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_RxFIFOByteSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **BytesUsed**)
- ◆ void UART\_RxFIFOFillLevel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **RxFIFOLevel**)
- ◆ void UART\_RxFIFOINTSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **RxINTCondition**)
- ◆ void UART\_RxFIFOClear(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ void UART\_TxFIFOFillLevel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **TxFIFOLevel**)
- ◆ void UART\_TxFIFOINTSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **TxINTCondition**)
- ◆ void UART\_TxFIFOClear(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetRxFIFOOverRunStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)



- ◆ void SIO\_Enable(TSB\_SC\_TypeDef \* SIOx)
- ◆ void SIO\_Disable(TSB\_SC\_TypeDef \* SIOx)
- ◆ uint8\_t SIO\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef \* SIOx)
- ◆ void SIO\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef \* SIOx, uint8\_t Data)
- ◆ void SIO\_Init(TSB\_SC\_TypeDef \* SIOx, uint32\_t IOClkSel,  
SIO\_InitTypeDef \* InitStruct)

## 15.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。:

- 1) 初期化と設定:  
UART\_Enable(), UART\_Disable(), UART\_Init(), UART\_DefaultConfig(),  
SIO\_Enable(), SIO\_Disable(), SIO\_Init()
- 2) 送受信設定とエラー確認:  
UART\_GetBufState(), UART\_GetRxData(), UART\_SetTxData(),  
UART\_GetErrState(), SIO\_GetRxData(), SIO\_SetTxData()
- 3) その他:  
UART\_SWReset(), UART\_SetWakeUpFunc(), UART\_SetIdleMode()
- 4) FIFO 制御:  
UART\_FIFOConfig(), UART\_SetFIFOTransferMode(), UART\_RxFIFOINTCtrl(),  
UART\_TxFIFOINTCtrl(), UART\_RxFIFOByteSel(), UART\_RxFIFOFillLevel(),  
UART\_RxFIFOINTSel(), UART\_RxFIFOClear(), UART\_TxFIFOFillLevel(),  
UART\_TxFIFOINTSel(), UART\_TxFIFOClear(), UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus(),  
UART\_GetRxFIFOOverRunStatus(), UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus(),  
UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus()

## 15.2.3 関数仕様

補足: 引数に記述している“TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**” は、以下から選択してください。

- **TMPM381**: UART0, UART1, UART2
- **TMPM383**: UART0, UART1

また、“TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**” は、以下から選択してください。

- **TMPM381**: SIO0, SIO1, SIO2
- **TMPM383**: SIO0, SIO1

### 15.2.3.1 UART\_Enable

UART 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Enable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 動作を許可します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.2 UART\_Disable

UART 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Disable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 動作を禁止します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.3 UART\_GetBufState

送受信バッファ状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
UART_GetBufState(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
uint8_t Direction)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**Direction**: 送信/受信を選択します。

- **UART\_RX**: 受信
- **UART\_TX**: 送信

機能:

**Direction** が **UART\_RX** の場合、以下の受信バッファの状態を返します。

**DONE**: 受信データはバッファに保存済み

**BUSY**: データ受信

**Direction** が **UART\_TX** の場合、以下の送信バッファの状態を返します。

**DONE**: バッファ中のデータは送信済み

**BUSY**: データ送信中

戻り値:

**DONE**: バッファリード/ライト可能状態

**BUSY**: 送受信

## 15.2.3.4 UART\_SWReset

ソフトウェアリセット

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_SWReset(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

ソフトウェアリセットが発生します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.5 UART\_Init

UART チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Init(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
           UART_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**InitStruct**: UART に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

機能:

ボーレート、ビット単位の転送、ストップビット、パリティ、転送モード、フローコントロールなどの初期設定を行います。

戻り値:

なし

## 15.2.3.6 UART\_GetRxData

受信データの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxData(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信データを読み込みます。**UART\_GetBufState(UARTx, UART\_RX)**にて **DONE** を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャネル) 割り込み関数の中で実行してください。

戻り値:

受信データです。データ範囲は 0x00~0x1FF です

## 15.2.3.7 UART\_SetTxData

送信データの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_SetTxData(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
               uint32_t Data)
```

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**Data**: 送信データ(7 ビット、8 ビット、9 ビット)

**機能:**

送信データを設定します。**UART\_GetBufState(UARTx, UART\_TX)**にて **DONE** を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャンネル) 割り込み関数の中で実行してください。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.8 UART\_DefaultConfig

デフォルト構成での初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_DefaultConfig(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

以下の構成で初期化します:

ボーレート: 115200 bps

データ長: 8 ビット

ストップビット: 1 ビット

パリティ: なし

フローコントロール: なし

送受信有効。ボーレートジェネレータはソースクロックとして使用。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.9 UART\_GetErrState

転送エラーフラグの読み出し

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
UART_Err  
UART_GetErrState(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

転送エラーフラグを読み出します。

戻り値:

UART\_NO\_ERR: エラーなし

UART\_OVERRUN: オーバーランエラー

UART\_PARITY\_ERR: パリティエラー

UART\_FRAMING\_ERR: フレーミングエラー

UART\_ERRS: 上記の 2 つ以上のエラーが発生している

## 15.2.3.10 UART\_SetWakeUpFunc

9 ビットモード時のウェイクアップ機能の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_SetWakeUpFunc(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: ウェイクアップ機能の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効
- **DISABLE**: 無効

機能:

9 ビットモード時のウェイクアップ機能を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の場合、ウェイクアップ機能を有効に、

**NewState** が **DISABLE** の場合、ウェイクアップ機能を無効に設定します。

ウェイクアップ機能は、9 ビットモード時のみ機能します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.11 UART\_SetIdleMode

IDLE 時の動作

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_SetIdleMode(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: IDLE 時の動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

機能:

IDLE 時の動作を選択します。

**NewState** が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも UART チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.12 UART\_FIFOConfig

FIFO の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_FIFOConfig(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                 FunctionalState NewState)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: FIFO の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

FIFO の許可/禁止を選択します。

**NewState** が **ENABLE** の場合、FIFO を許可します。**DISABLE** の場合、FIFO を禁止します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.13 UART\_SetFIFOTransferMode

転送モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_SetFIFOTransferMode(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                          uint32_t TransferMode)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TransferMode**: 転送モードを選択します。

- **UART\_TRANSFER\_PROHIBIT**: 転送禁止
- **UART\_TRANSFER\_HALFDPX\_RX**: 半二重(受信)
- **UART\_TRANSFER\_HALFDPX\_TX**: 半二重(送信)
- **UART\_TRANSFER\_FULLDPX**: 全二重

機能:

転送モードを選択します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.14 UART\_TRxAutoDisable

送信/受信の自動禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TRxAutoDisable(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                    UART_TRxDisable TRxAutoDisable)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TRxAutoDisable**: 送信/受信の自動禁止機能を制御します。

- **UART\_RTXCNT\_NONE**: なし
- **UART\_RTXCNT\_AUTODISABLE**: 自動禁止

機能:

送信/受信の自動禁止機能を制御します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.15 UART\_RxFIFOINTCtrl

受信 FIFO 使用時の受信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                   FunctionalState NewState)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: 受信 FIFO 使用時の受信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

受信 FIFO 有効にされている時の受信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

戻り値:

なし

## 15.2.3.16 UART\_TxFIFOINTCtrl

送信 FIFO 使用時の送信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                   FunctionalState NewState)
```

引数:

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**NewState:** 送信 FIFO 使用時の送信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

送信 FIFO 有効にされている時の送信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.17 UART\_RxFIFOByteSel

受信 FIFO 使用バイト数

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_RxFIFOByteSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **BytesUsed**)

**引数:**

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**BytesUsed:** 受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

- **UART\_RXFIFO\_MAX:** 最大
- **UART\_RXFIFO\_RXFLEVEL:** 受信 FIFO の FILL レベルに同じ

**機能:**

受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.18 UART\_RxFIFOFillLevel

受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_RxFIFOFillLevel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **RxFIFOLevel**)

**引数:**

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**RxFIFOLevel:** 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

<b>RxFIFOLevel</b>	半二重	全二重
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_4_2B</b>	4 バイト	2 バイト
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_1_1B</b>	1 バイト	1 バイト
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_2_2B</b>	2 バイト	2 バイト
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_3_1B</b>	3 バイト	1 バイト

**機能:**



受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルを選択します。

戻り値:  
なし

## 15.2.3.19 UART\_RxFIFOINTSel

受信割り込み発生条件の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOINTSel(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
uint32_t RxINTCondition)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**RxINTCondition**: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART\_RFIS\_REACH\_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART\_RFIS\_REACH\_EXCEED\_FLEVEL**: FIFO fill レベル≤割り込み発生 fill レベル

機能:

受信割り込み発生条件を選択します。

戻り値:  
なし

## 15.2.3.20 UART\_RxFIFOClear

受信 FIFO クリア

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOClear(TSB_SC_TypeDef * UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO をクリアします。

戻り値:  
なし

## 15.2.3.21 UART\_TxFIFOFillLevel

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TxFIFOFillLevel(TSB_SC_TypeDef * UARTx,
```

uint32\_t *TxFIFOLevel*)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TxFIFOLevel**: 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

<i>TxFIFOLevel</i>	半二重	全二重
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_0_0B	Empty	Empty
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_1_1B	1 バイト	1 バイト
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_2_0B	2 バイト	Empty
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_3_1B	3 バイト	1 バイト

機能:

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルを選択します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.22 UART\_TxFIFOINTSel

送信割り込み発生条件の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_TxFIFOINTSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t *TxINTCondition*)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TxINTCondition**: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART\_TFIS\_REACH\_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART\_TFIS\_REACH\_EXCEED\_FLEVEL**: FIFO fill レベル≤割り込み発生 fill レベル

機能:

送信割り込み発生条件を選択します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.23 UART\_TxFIFOClear

送信 FIFO クリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_TxFIFOClear(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO をクリアします。

戻り値:  
なし

## 15.2.3.24 UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus

受信 FIFO の fill レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO の fill レベルを取得します。

戻り値:

- **UART\_TRXFIFO\_EMPTY**: Empty
- **UART\_TRXFIFO\_1B**: 1 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_2B**: 2 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_3B**: 3 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_4B**: 4 バイト

## 15.2.3.25 UART\_GetRxFIFOOverRunStatus

受信 FIFO オーバーラン状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxFIFOOverRunStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO オーバーラン状態を取得します。

戻り値:

**UART\_RXFIFO\_OVERRUN**: オーバーラン発生

## 15.2.3.26 UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus

送信 FIFO の fill レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetTxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO の fill レベルの取得

戻り値:

- **UART\_TRXFIFO\_EMPTY**: Empty
- **UART\_TRXFIFO\_1B**: 1 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_2B**: 2 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_3B**: 3 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_4B**: 4 バイト

## 15.2.3.27 UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus

送信 FIFO オーバーラン状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

uint32\_t

UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**);

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO オーバーラン状態を取得します。

戻り値:

**UART\_TXFIFO\_UNDERRUN**: オーバーラン発生

## 15.2.3.28 SIO\_Enable

SIO 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void

SIO\_Enable(TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**)

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

機能:

SIO 動作を許可します。

戻り値:

なし

## 15.2.3.29 SIO\_Disable

SIO 動作の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
SIO\_Disable(TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**)

**引数:**

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**機能:**

SIO 動作を禁止します。

**戻り値:**

なし

### 15.2.3.30 SIO\_GetRxData

受信用バッファの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

uint32\_t  
SIO\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**)

**引数:**

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**機能:**

受信用バッファを取得します。

**戻り値:**

受信用バッファ(値の範囲は 0x00 ~ 0xFF です)

### 15.2.3.31 SIO\_SetTxData

送信用バッファの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
SIO\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**,  
uint8\_t **Data**)

**引数:**

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**Data**: 送信用バッファ

**機能:**

送信用バッファを指定します。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.32 SIO\_Init

SIO チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SIO_Init(TSB_SC_TypeDef* SIOx,  
          uint32_t IOClkSel,  
          SIO_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**IOClkSel**: クロックを選択します。

➤ **SIO\_CLK\_BAUDRATE**: ボーレートジェネレータ

➤ **SIO\_CLK\_SCLKINPUT**: SCLKx 端子入力

**InitStruct**: SIO に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

機能:

ボーレート、転送方向、転送モードなどの初期設定を行います。

戻り値:

なし

## 15.2.4 データ構造

### 15.2.4.1 UART\_InitTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**BaudRate**: UART 通信ボーレートを 2400(bps) から 115200(bps) に設定。(\*)

uint32\_t

**DataBits**: 転送ビット数を選択します。

➤ **UART\_DATA\_BITS\_7**: 7 ビットモード

➤ **UART\_DATA\_BITS\_8**: 8 ビットモード

➤ **UART\_DATA\_BITS\_9**: 9 ビットモード

uint32\_t

**StopBits**: ストップビット長を選択します。

➤ **UART\_STOP\_BITS\_1**: 1 ビット

➤ **UART\_STOP\_BITS\_2**: 2 ビット

uint32\_t

**Parity**: パリティを選択します。

➤ **UART\_NO\_PARITY**: パリティなし

➤ **UART\_EVEN\_PARITY**: 偶数(Even) パリティ

➤ **UART\_ODD\_PARITY**: 偶数(Even) パリティ

uint32\_t

**Mode**: 転送モードを選択します。送受信の場合は、送信と受信を OR 演算子によって接続して指定してください。

➤ **UART\_ENABLE\_TX**: 送信許可

➤ **UART\_ENABLE\_RX**: 受信許可

uint32\_t

**FlowCtrl:** フローコントロールモードを選択します(\*\*)。

- **UART\_NONE\_FLOW\_CTRL:** CTS 無効

\*: fperiph の周波数が高すぎる、または、低すぎると、ボーレートが正しく設定できない場合があります。

\*\* : UART\_NONE\_FLOW\_CTRL のみサポートしています。

## 15.2.4.2 SIO\_InitTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**InputClkEdge:** 入力クロックエッジを選択します。

- **SIO\_SCLKS\_TXDF\_RXDR:** SCLKx の立ち下がリエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ TXDx 端子へ出力します。SCLKx の立ち上がりエッジで RXDx 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。この時、SCLKx は High レベルからスタートします。
- **SIO\_SCLKS\_TXDR\_RXDF:** SCLKx の立ち上がりエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ TXDx 端子へ出力します。SCLKx の立ち下がリエッジで RXDx 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。この時、SCLKx は Low レベルからスタートします。

uint32\_t

**IntervalTime:** 連続転送時のインターバル時間を選択します。

- **SIO\_SINT\_TIME\_NONE:** なし
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_1:** 1\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_2:** 2\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_4:** 4\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_8:** 8\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_16:** 16\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_32:** 32\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_64:** 64\*SCLK

uint32\_t

**TransferMode:** 転送モードを選択します。

- **SIO\_TRANSFER\_PROHIBIT:** 転送禁止
- **SIO\_TRANSFER\_HALFDPX\_RX:** 半二重(受信)
- **SIO\_TRANSFER\_HALFDPX\_TX:** 半二重(送信)
- **SIO\_TRANSFER\_FULLDPX:** 全二重

uint32\_t

**TransferDir:** 転送方向を選択します。

- **SIO\_LSB\_FRIST:** LSB FRIST
- **SIO\_MSB\_FRIST:** MSB FRIST

uint32\_t

**Mode:** 送受信を制御します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **SIO\_ENABLE\_TX:** 送信許可
- **SIO\_ENABLE\_RX:** 受信許可

uint32\_t

**DoubleBuffer:** ダブルバッファの許可/禁止を選択します。

- **SIO\_WBUF\_ENABLE:** 許可

- **SIO\_WBUF\_DISABLE:** 禁止

uint32\_t

**BaudRateClock:** ボーレートジェネレータ入力クロックを選択します。

- **SIO\_BR\_CLOCK\_T1:**  $\phi T1$
- **SIO\_BR\_CLOCK\_T4:**  $\phi T4$
- **SIO\_BR\_CLOCK\_T16:**  $\phi T16$
- **SIO\_BR\_CLOCK\_T64:**  $\phi T64$

uint32\_t

**Divider:** 分周値"N"を選択します。

- **SIO\_BR\_DIVIDER\_16:** 16 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_1:** 1 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_2:** 2 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_3:** 3 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_4:** 4 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_5:** 5 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_6:** 6 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_7:** 7 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_8:** 8 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_9:** 9 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_10:** 10 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_11:** 11 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_12:** 12 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_13:** 13 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_14:** 14 分周
- **SIO\_BR\_DIVIDER\_15:** 15 分周



## 16. VLTD

### 16.1 概要

電圧検出回路は、電源電圧の低下を検出し、リセット信号を発生します。

VLTD ドライバ API は、VLTD 機能の許可/禁止、検出電圧の設定、電源電圧の状態の取得を設定する関数セットです。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm38x\_vltd.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm38x\_vltd.h

### 16.2 API 関数

#### 16.2.1 関数一覧

- ◆ void VLTD\_Enable(void);
- ◆ void VLTD\_Disable(void);

#### 16.2.2 関数の種類

上記関数は、次の関係があります。

VLTD の許可/禁止: VLTD\_Enable(), VLTD\_Disable()

#### 16.2.3 関数仕様

##### 16.2.3.1 VLTD\_Enable

電圧検出の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void  
VLTD\_Enable(void)

引数:

なし

機能:

電圧検出を許可します。

戻り値:

なし

##### 16.2.3.2 VLTD\_Disable

電圧検出の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void

VLTD\_Disable(void)

引数:

なし

機能:

電圧検出を禁止します。

戻り値:

なし

## 16.2.4 データ構造:

なし

## 17. WDT

### 17.1 概要

ウォッチドッグタイマ(WDT)は、ノイズなどの原因によりCPU が誤動作(暴走)を始めた場合、これを検出し正常な状態に戻すことを目的としています。

WDTドライバの API は、検出時間、カウンタのオーバーフロー時の出力、IDLE モードでの動作設定などの引数等、ウォッチドッグタイマの設定を行う関数を提供します。

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm38x\_wdt.c

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\incl\\tmpm38x\_wdt.h

### 17.2 API 関数

#### 17.2.1 関数一覧

- ◆ void WDT\_SetDetectTime(uint32\_t **DetectTime**)
- ◆ void WDT\_SetIdleMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void WDT\_SetOverflowOutput(uint32\_t **OverflowOutput**)
- ◆ void WDT\_Init(WDT\_InitTypeDef \* **InitStruct**)
- ◆ void WDT\_Enable(void)
- ◆ void WDT\_Disable(void)
- ◆ void WDT\_WriteClearCode(void)

#### 17.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。:

- 1) ウォッチドッグタイマ設定:  
WDT\_SetDetectTime(), WDT\_SetOverflowOutput(), WDT\_Init(), WDT\_Enable(),  
WDT\_Disable(), WDT\_WriteClearCode() functions
- 2) IDLE モード時の開始・停止:  
WDT\_SetIdleMode()

#### 17.2.3 関数仕様

##### 17.2.3.1 WDT\_SetDetectTime

WDT 検出時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
WDT\_SetDetectTime(uint32\_t **DetectTime**)

引数:

**DetectTime**: 以下から検出時間を選択します。

- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_15: 2<sup>15</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_17: 2<sup>17</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_19: 2<sup>19</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_21: 2<sup>21</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_23: 2<sup>23</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_25: 2<sup>25</sup>/fsys

**機能:**

WDT の検出時間を設定します。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.2 WDT\_SetIdleMode

IDLE 時の動作選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
WDT_SetIdleMode(FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**NewState**: 以下から IDLE 時の WDT 動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

**機能:**

本関数は、IDLE モード時の WDT カウンタの動作を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時は WDT カウンタ停止

**NewState** が **DISABLE** の時は WDT カウンタ作動

**補足:**

CPU が IDLE モードに入る前に、引数を選択して本関数を呼び出してください。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.3 WDT\_SetOverflowOutput

暴走検出後の動作選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
WDT_SetOverflowOutput(uint32_t OverflowOutput)
```

**引数:**

**OverflowOutput**: 以下から暴走検出後の動作を選択します。

- **WDT\_NMIINT**: INTWDT 割り込み要求を発生します。
- **WDT\_WDOUT**: マイコンをリセットします。

**機能:**

カウンタオーバーフロー時の NMI 割り込み/リセットの設定を行います。

**OverflowOutput** が **WDT\_NMIINT** の時、カウンタオーバーフローが発生すると NMI 割り込みが発生します。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.4 WDT\_Init

WDT の初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
WDT_Init(WDT_InitTypeDef* InitStruct)
```

**引数:**

**InitStruct:** カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 設定に関する構造体。(詳細は“データ構造:”を参照)

**機能:**

カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 初期設定。**WDT\_SetDetectTime()**, **WDT\_SetOverflowOutput()** が呼び出されます。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.5 WDT\_Enable

WDT 動作の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
WDT_Enable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

WDT 動作を許可します。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.6 WDT\_Disable

WDT 動作の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
WDT_Disable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

WDT 動作を禁止します。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.7 WDT\_WriteClearCode

クリアコードの書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

void  
WDT\_WriteClearCode (void)

引数:

なし

機能:

クリアコードをライトします。

戻り値:

なし

## 17.2.4 データ構造

### 17.2.4.1 WDT\_InitTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**DetectTime** 以下から検出時間を選択します。

- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_15:** 2<sup>15</sup>/fsys
- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_17:** 2<sup>17</sup>/fsys
- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_19:** 2<sup>19</sup>/fsys
- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_21:** 2<sup>21</sup>/fsys
- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_23:** 2<sup>23</sup>/fsys
- **WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_25:** 2<sup>25</sup>/fsys

uint32\_t

**OverflowOutput** 以下から、カウンタオーバーフロー時の動作を選択します。

- **WDT\_WDOUT:** マイコンをリセットします。
- **WDT\_NMIINT:** INTNMI 割り込み要求を発生します。